



平成20年 4月

山口県立徳佐高等学校高俣分校

はじめに

不登校やニート、いじめ、犯罪の低年齢化等、学校教育にかかわる問題はますます多様化かつ深刻化する傾向にある。その背景には、生徒指導上の問題とキャリア教育上の問題の2つの側面があると考えられる。

核家族化や地域の人間関係の希薄化、情報化によるコミュニケーションの取り方の変化等、人と人との結びつきに大きな変化が起きている。これまでは、三世代での家庭生活や地域の伝統行事、近所の子どもの遊び等、異なる年齢・立場の人々とのかかわりを通して、様々な考え方を互いに認め合う態度や思いやる心を育んできたが、核家族化等の社会の変化に伴い、子どもが社会性を育む場が失われつつある。このことが、生徒指導上の問題に密接にかかわり、不登校やいじめ等の一因となっているのではないだろうか。

一方、価値観の多様化、雇用形態の変化、成果主義の導入等により、いい大学に入って、大企業に入社すれば安定した収入が得られ、しかも、年功序列で給料が上がっていくという、単純な幸せの方程式は崩れつつある。経済不安等、先行きの不透明感が増す中で、子どもたちは幸せな将来をイメージしにくく、自己の在り方生き方を見出すことは難しくなっている。このようなキャリア教育上の問題が、ニートの増加等の背景にあるのではないだろうか。

従来、家庭や地域社会が子どもに生きる希望を与え、人としての在り方生き方を示すとともに、豊かな社会性を育む場を与えてきたが、家庭や地域社会の教育機能が低下した現在、学校がその機能の一部を担い、在り方生き方を考えさせ、社会性を育む機会を意図的に仕組んでいく必要があるのではないだろうか。本校では、思いやりに欠ける言動をとる、人とのかかわりが苦手である、卒業生の早期離職率が比較的高いなどの現状を鑑み、平成17年度から2年間、文部科学省の「豊かな体験活動推進事業（命の大切さを学ばせる体験活動に関する調査研究）」の調査研究協力校の委託を受けたことをきっかけとして、乳幼児や高齢者との交流体験活動“むつみあい”に取り組み始めた。これは、生徒指導とキャリア教育の両面からアプローチしようとする教育活動であり、乳幼児や高齢者との交流を通して社会性を育むとともに、他者とのかかわりの中で自己を見つめ、在り方生き方を考えさせる場を意図的に与えるものである。

“むつみあい”は、毎年度、評価と改善を重ね、より効果的な指導の在り方を模索してきた。3年間の取組から、いじめや不登校等の教育問題を解決する1つの方策を示すことができれば幸いである。

目 次

概要	5
学校の概要	9
取組の内容	11
1 ねらい	12
2 指導方法・内容	14
(1) 年間指導実績	
(2) 計画の趣旨と指導上の留意点	
(3) 3年間の取組の推移(概要)	
3 指導体制	26
4 活動の様子	28
(1) 記録写真	
(2) 生徒の感想	
成果と課題	39
1 アンケート	40
(1) 自己分析アンケート	
(2) 学校生活アンケート	
(3) 学校支援委員アンケート	
(4) 保育園保護者アンケート	
(5) 関係施設職員の意見聴取	
(6) 本校保護者の意見聴取	
2 成果	45
(1) 「役立ち感」の育成	
(2) 「人とかかわろうとする力」の育成	
(3) 校内の人間関係づくり	
(4) 自己理解	
(5) 困難や失敗を乗り越える力の育成	
(6) 自己の役割の認識	
(7) 在り方生き方の探索	
3 課題	49
(1) 体験の場から実生活への応用	
(2) 段階的・系統的指導	
(3) 評価の方法	
他領域との関連	51
1 各教科・科目との関連	52
2 キャリア教育との関連	53
(1) 「自他の理解能力」の育成	
(2) 「コミュニケーション能力」の育成	
(3) 「役割把握・認識能力」の育成	
(4) 「計画実行能力」の育成	
(5) 「課題解決能力」の育成	
3 生徒指導との関連	55
(1) 「役立ち感」の育成	
(2) 「人とかかわろうとする力」の育成	
交流体験活動ガイドラインの作成	57
1 交流体験活動の在り方	58
2 交流体験活動の指導マトリックス	61
参考資料	63
1 むつみあい通信	64
2 報道関係	71
参考文献	73

概 要

(1) “むつみあい”の取組内容

ねらい

乳幼児や高齢者との交流体験活動を通して、役立ち感を実感させ、自己肯定感を養うとともに、人とかかわろうとする力を育成し、思いやりの心を育む。併せて、校内の人間関係づくりを図る。さらに、自己理解を深め、自己の在り方生き方を考えさせるとともに、困難や失敗を乗り越える力を育成し、キャリア形成を促す。

活動内容と趣旨

平成17年度は第1学年を対象とし、乳幼児や高齢者との交流体験活動に加え、ボランティア活動・勤労生産体験活動等、多様な体験活動を展開することで、思いやり・自己肯定感・勤労観・命を大切に作る心等、幅広い人間性を育成することをねらいとした。

平成18年度は第1・2学年及び第3学年の一部(社会福祉実習選択者)を対象とし、役立ち感を実感させ、自己肯定感や人とかかわろうとする力を育成し、他者を思いやる心を育むことに主眼を置き、乳幼児や高齢者との交流体験活動に特化して取り組むようにした。また、交流体験活動で学んだことを校内の人間関係につなげられるよう、グループワークも取り入れた。

平成19年度は全校生徒を対象とし、前年度と同様に乳幼児や高齢者との交流体験活動を中心に取り組んだ。活動内容を生徒に決めさせるなど、生徒がより主体的に活動することができようになるとともに、事前学習、レクリエーションの準備等における異学年合同の活動を取り入れた。

指導体制

プロジェクトチームを中心として、全校体制で指導にあたった。プロジェクトチームは、指導計画の立案・教材研究・関係施設との折衝・広報・調査等の業務を担当した。また、文部科学省が行う「豊かな体験活動推進事業(命の大切さを学ばせる体験活動に関する調査研究)」の調査研究協力校の受託期間中であった平成17年度から平成18年度には、教職員・関係施設職員・保護者・地域住民で構成される学校支援委員会を設置し、体験活動の場や機会の開拓等に取り組んだ。

(2) 成果と課題

成果

アンケートの結果や感想等から、生徒が役立ち感を実感している様子がうかがえた。また、“人とかかわることに対する積極性が向上した”、“他者理解に基づき配慮あるかかわりができるようになった”、“受容的態度と自制心が身に付いた”、“自己を開示できるようになった”等、人とかかわろうとする力が向上していることをうかがわせる好ましい変容が認められた。レクリエーションの企画・運営を通して、校内の人間関係づくりが促されたとも考えている。

さらに、多様な体験を通して自己理解を深め、在り方生き方を考えようとする態度が養われたり、様々な困難や失敗を克服する力を身に付けたり、自己の役割を認識できるようになったりするなどの成果も認められた。

課題

体験が体験のまま終わってしまい、交流体験活動で学んだことが実生活に生かされていない生徒も少なからずいた。体験を実生活につなげられるような手だてを考案する必要がある。また、3年間という長期にわたる学習にもかかわらず、段階的・系統的な指導がなされていない面もあった。学習要素とその効果を検証し、適切な学年に配列することで、段階的・系統的な指導を実現しなければならない。さらに、客観性があり、かつ、指導の目標と評価規準の間に整合性のある評価方法を立案することも今後の重要な課題の一つである。

(3) 他領域との関連

各教科・科目との関連

“むつみあい”の第1学年の学習内容のうち、各教科・科目と関連の深いものについては、その科目に位置付けて指導を行ってきた。毎年度、関連する科目を増やし、より横断的な学習を行うことができるようにした。

キャリア教育との関連

職業的（進路）発達にかかわる諸能力は、人間関係形成能力（自他の理解能力、コミュニケーション能力）、情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力）、将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力）、意志決定能力（選択能力、課題解決能力）の4領域8能力に分けられる。このうち、“むつみあい”によって育成されることが特に期待されるものとして、自他の理解能力、コミュニケーション能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、課題解決能力の

5 能力が挙げられる。

生徒指導との関連

生徒指導の第一の課題は自己指導力の育成であり、自己指導力の育成の基になるのは自己有用感であると考えられている。そして、自己有用感を育むためには、交流体験活動の機会を増やす必要があるとされている。“むつみあい”のねらいである「役立ち感」とは、まさにこの「自己有用感」のことであり、“むつみあい”は自己指導力の育成につながるものである。

いじめや不登校等、生徒指導上の今日的課題の多くは、人間関係形成能力の欠如に原因がある。交流体験活動を通して、人とかかわろうとする力を育成することは、これらの課題の解決につながる。

(4) 交流体験活動ガイドラインの作成

これまでの3年間の取組の中で指導方法・内容について改善を重ね、効果的な交流体験活動の在り方を研究してきた。「交流体験活動ガイドライン」はその研究の成果をまとめたもので、「交流体験活動の在り方」と「交流体験活動の指導マトリックス」の2部で構成される。

第1部「交流体験活動の在り方」は、交流体験活動を導入するにあたって配慮することが望ましい事項を示したもので、次の10項目からなる。

長期的・継続的に実施する

活動内容を生徒に主体的に設定させる

異学年合同での活動を取り入れる

生徒に活動の趣旨を十分に理解させる

教育課程上に適切に位置付ける

キャリア教育との一体化を図る

生徒指導との一体化を図る

各教科・科目との関連付けを図る

関係施設との連携を図る

安全・衛生管理を徹底する

また、第2部「交流体験活動の指導マトリックス」は、交流体験活動の学習要素と目標を3学年にわたり段階的・系統的に配列したものである（p.61参照）。

学校の概要

(1) 名称

山口県立徳佐高等学校高俣分校 (通称 : むつみキャンパス)

(2) 所在地

山口県萩市大字高佐下 2 2 0 4 - 1

(3) 生徒数

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
普通科・全日制	5 名	7 名	1 0 名	2 2 名

平成 2 0 年 2 月 1 日現在

(4) 教育目標 (平成 1 9 年度)

教育目標・・・自主創造・親和協同・努力実践

中・長期目標

人間としての在り方生き方の基本を身に付ける

生き生きと目的をもって意欲的・自主的に学校生活に取り組む

自己の夢の実現に向けて努力する

(5) 特色ある教育活動

基礎学力向上

毎朝 1 0 分間の漢字学習と週 1 回放課後 3 0 分間の基礎計算学習を中心に、基礎学力の向上に取り組んでいる。

キャリア教育 “ あゆみ ”

インターンシップ・進路講演会・進路説明会等を中心に、自己の適性・能力の理解や勤労観・職業観の育成に取り組んでいる。

交流体験活動 “ むつみあい ”

自己肯定感や人とかかわろうとする力を養い、思いやりのある人間を育成することを目的に、乳幼児や高齢者との長期的・継続的な交流体験活動を行っている。

(6) 生徒の特性

自然豊かな環境でのびのびと育ち、素朴で素直な生徒が多い。一方で、人とかかわることを苦手とし、自己肯定感に欠ける傾向が強い。

取組の内容

1年目（平成17年度）は乳幼児や高齢者との交流体験活動・ボランティア活動・勤労生産体験活動等を組み合わせて実施したが、生徒の変容等から、本取組のねらいに向け最も高い教育効果を示したのは乳幼児や高齢者との交流体験活動であると考えられた。そこで、2年目（平成18年度）からは、乳幼児や高齢者との交流体験活動を中心に取り組むこととした。そのねらいは、次の3点である。

乳幼児や高齢者の役に立つ喜び（役立ち感）を実感させ、自己肯定感を育む。同時に、異なる立場の人とのかかわりを通して、互いの違いを認め、受け入れ、自ら積極的に働きかける態度（人とかかわろうとする力）を育成する。さらに、自己肯定感や人とかかわろうとする力を身に付け、乳幼児や高齢者、共に活動する生徒同士のかかわりを深めていく中で、他者を思いやる心を育てていく。

乳幼児・高齢者との交流では、互いの違いを理解し、受け入れた上で、自分から積極的に働きかけなければ、理解力・身体能力・価値観等の相違を超えてコミュニケーションを成立させることはできない。そこには、生徒が必然的にこのような状況に立たされ、自分から積極的にかかわらざるを得ない仕組みがある。また、自分たちよりもずっと年下の乳幼児からは生徒誰しもが頼りにされ、介護の必要な高齢者との交流では役に立てる機会がいくらかもある。生徒同士や家族とのかかわりの中では経験することの少ない「頼りにされる」、「役に立つ」機会が、乳幼児・高齢者との交流の中には豊富にあるのである。本取組のねらいは、乳幼児・高齢者との交流がもつこのような特徴によって成立するものである。

また、キャリア教育上及び生徒指導上のねらいも併せもっている。キャリア教育上のねらいとは、他者とのかかわりを通して自己を見つめ、自己理解を深めるとともに、乳幼児・高齢者という離れた世代とのかかわりの中で人生観を育み、自己の在り方生き方を考えさせるというものである。さらに、交流体験の中で経験する数多くの困難や失敗を通して、それらを乗り越える力を育成することは、キャリアの重要な要素である自分の仕事をやり通す態度を養うことにつながる。前述した自己肯定感の育成も、キャリア形成の基盤になるものとして、キャリア教育上のねらいと深い関係がある。一方、生徒指導上のねらいとは、レクリエーションの事前準備等のために、生徒同士が話し合い、役割を分担し、協力し合うことで、生徒同士のかかわりを促し、自己理解・相互理解を深め、校内の人間関係づくりを図るというものである。

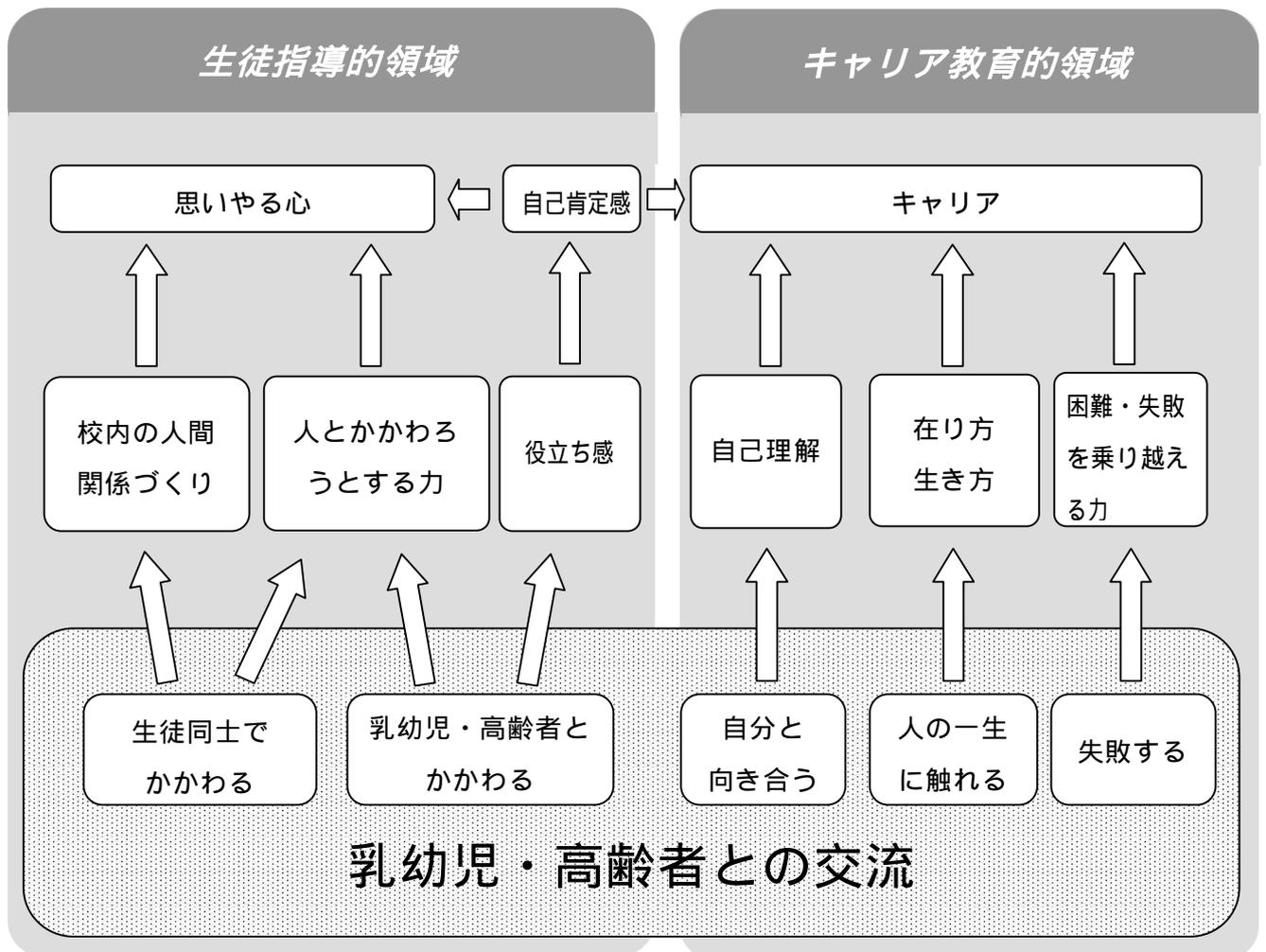


図1 ねらいの概念図

生徒指導的領域とキャリア教育的領域の2つの領域に分け、各領域の学習要素から学ぶことのできる態度・能力を段階的に示した。上図は、学習過程を極力単純化して示したが、このように明確に領域を区分けできるわけではなく、学習過程も一本の単純な流れではない。学習要素は互いに組み合わせあって学習効果を発揮し、育った態度・能力も相互に影響し合いながら深められていくものである。

2

指導方法・内容

(1) 年間指導実績

平成17年度年間指導実績

第1学年

日程	項目	内容	教育課程上の位置付け	
1 学期	5/9	事前学習	高齢者疑似体験	特別活動(LHR)
	5/30	事前学習	高齢者疑似体験	特別活動(LHR)
		勤労・生産体験	サツマイモの植え付け	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	6/13	事前学習	乳幼児・高齢者との交流の留意点	特別活動(LHR)
	6/14	乳幼児との交流	自己紹介・フォークダンス・自由遊び	特別活動(LHR)
				特別活動(LHR)
	6/15	乳幼児との交流	自由遊び・乾布摩擦・折り紙・外遊び・給食指導	各教科・科目(家庭基礎)
				特別活動(LHR)
	6/16	高齢者との交流	車イス操作の練習・風船バレー・入浴後の介助・だんご作り	特別活動(LHR)
				特別活動(LHR)
6/17	高齢者との交流	歌教室・散歩介助・梅干し作り・昼食準備	各教科・科目(家庭基礎)	
			特別活動(LHR)	
6/27	聴覚障害者との交流	聴覚障害者の講話・手話の練習・手話ソング	総合的な学習の時間	
			総合的な学習の時間	
7/4	振り返り	1学期の振り返り	特別活動(LHR)	
夏季休業				
2 学期	8/30	乳幼児との交流 高齢者との交流 (選択)	運動会の練習・紙人形劇・自由遊び	総合的な学習の時間
			フォークダンス・合唱	各教科・科目(家庭基礎)
	8/31	乳幼児との交流 高齢者との交流 (選択)	運動会の練習・プール遊び	総合的な学習の時間
			シーツ交換	各教科・科目(家庭基礎)
	9/1	乳幼児との交流 高齢者との交流 (選択)	お遊戯・ミニ劇作り・給食指導・昼寝の寝かし付け	総合的な学習の時間
			歌教室・散歩介助・オセロ・将棋・伝統玩具贈呈・昼食準備	各教科・科目(家庭基礎)
	9/2	ボランティア活動	学校周辺の環境美化	特別活動(LHR)
	9/5	乳幼児との交流 高齢者との交流 (選択)	身体測定の手伝い・自由遊び・給食指導・昼寝の寝かし付け	総合的な学習の時間
			散歩介助・伝統玩具遊び・昼食準備	各教科・科目(家庭基礎)
	9/26	勤労・生産体験	サツマイモの収穫	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
9/30	体験発表	発表準備	特別活動(LHR)	
			特別活動(LHR)	
10/1	体験発表	文化祭での体験種々の学習発表	特別活動(学校行事)	
			特別活動(学校行事)	
	勤労・生産体験	文化祭でのサツマイモの加工・販売	特別活動(学校行事)	
			特別活動(学校行事)	
冬季休業				
3 学期	1/23	生活習慣病予防教室	食生活改善推進員の講話・調理実習	総合的な学習の時間
				総合的な学習の時間

平成18年度年間指導実績

第1学年

日程	項目	内容	教育課程上の位置付け	
1 学期	4/11	事前学習	体験活動の趣旨理解・自己分析アンケート	特別活動(LHR)
	4/17	事前学習	乳幼児との交流の留意点・自己紹介準備・プレゼント作製	総合的な学習の時間
	4/24	乳幼児との交流	お遊戯・歌・自由遊び	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	5/1	乳幼児との交流	歌・身体測定のお手伝い・折り紙	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	5/8	生活習慣と心の健康	第1回「眠りと心」	特別活動(LHR)
	5/22	乳幼児との交流	乾布摩擦・ミニ冊作り	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	6/7	乳幼児との交流	手遊び「幸せなら手を叩こう」等・紙飛行機・自由遊び	各教科・科目(家庭基礎) 各教科・科目(家庭基礎)
	6/12	乳幼児との交流	フォークダンス・自由遊び	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	6/19	グループワーク	気づき型グループワーク	総合的な学習の時間
	6/26	乳幼児との交流	七夕飾り作り	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	7/3	命の意味 振り返り	第1回「保育園児の発達と遊びの変化」 1学期のまとめ	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
夏 季 休 業				
2 学期	8/29	乳幼児との交流	紙人形劇・シャボン玉・金魚すくい	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	8/30	乳幼児との交流		総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	9/25	乳幼児との交流	サツマイモ収穫	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	10/1	学習発表	文化祭でのプレゼンテーション	特別活動(学校行事)
	10/16	命の意味 振り返り	第2回「赤ちゃんの誕生と生命」 乳幼児との交流のまとめ	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	10/20	高齢者との交流(福寿会)	伝統玩具の作製	特別活動(学校行事) 特別活動(学校行事)
	10/30	事前学習	高齢者選抜体験・高齢者との交流の留意点・自己紹介準備	特別活動(LHR)
	11/6	乳幼児との交流	リンゴ狩り	特別活動(学校行事) 特別活動(学校行事)
	11/10	高齢者との交流	車イス操作の練習・ジャンケン大会・歌	各教科・科目(家庭基礎) 各教科・科目(家庭基礎)
	12/4	高齢者との交流	的当てゲーム・クイズ「なくなったものは何？」	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	11/27	グループワーク 振り返り	人間関係樹形型グループワーク 2学期のまとめ	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
冬 季 休 業				
3 学期	1/16	生活習慣と心の健康	第2回「生活の中のメディア」	各教科・科目(情報A)
	1/22	グループワーク	課題解決型グループワーク	特別活動(LHR)
	1/23	命の意味	第3回「生と死」	各教科・科目(国語総合)
	1/29	高齢者との交流	ペットボトルボウリング	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	2/5	高齢者との交流	フォークダンス・風船バレー・歌	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)
	2/19	振り返り	高齢者の交流のまとめ 1年間のまとめ・自己分析アンケート	総合的な学習の時間 特別活動(LHR)

第2学年

教育課程上の位置付け：各教科・科目（社会福祉基礎）

	日程	項目	内容	異学年交流
1学期	4/12	事前学習	高齢者施設実習に向けて・自己分析アンケート	
	4/19	高齢者施設実習	歌遊び	3年
	4/26	振り返り		
	5/10	講義	(風邪流行のため実習中止)	
	5/17	事前学習	フォークダンスの練習	
	5/24	高齢者施設実習	フォークダンス	3年
	5/31	振り返り・事前学習	七夕飾りの準備	
	6/7	高齢者施設実習	七夕飾り作製	3年
	6/14	振り返り	高齢者施設実習のまとめ	
	6/21	講義		
	6/28	講義		
	7/5	講義		
7/13	期末考査			
7/18	特別時間割			
夏 季 休 業				
2学期	9/6	事前学習	保育園実習に向けて・プレゼント(クラフト)の作製	
	9/13	保育園実習	プレゼント贈呈・クラフト作製・自由遊び	
	9/20	高齢者施設実習	運動会	3年
	9/27	振り返り・講義		
	10/4	保育園実習	散歩・自由遊び	
	10/11	振り返り		
	10/18	講義		
	10/25	事前学習	よさこい・伝統玩具遊びの準備	
	11/1	保育園実習	よさこい・伝統玩具遊び	3年
	11/8	保育園実習	よさこい・紙飛行機・自由遊び	3年
	11/15	振り返り・講義		
	11/22	保育園実習	よさこい・自由遊び	3年
	11/29	振り返り		
	12/8	期末考査		
12/13	特別時間割			
冬 季 休 業				
3学期	1/10	事前学習	絵本の読み聞かせの準備	
	1/17	保育園実習	よさこい・正月遊び	3年
	1/24	振り返り・事前学習	絵本の読み聞かせの準備	
	1/31	保育園実習	よさこい・絵本の読み聞かせ・自由遊び	
	2/7	振り返り	保育園実習のまとめ	
	2/14	学習発表	感想文の発表	
	2/21	講義		
	3/6	学年末考査		
3/13	特別時間割	1年間のまとめ・自己分析アンケート		

1日2単位時間。ただし、定期考査と特別時間割は1単位時間。

各教科・科目（社会福祉基礎）以外の時間に、以下の活動を行った。

日程	内容	関係施設・組織	教育課程上の位置付け
9/25	サツマイモ収穫	保育園	総合的な学習の時間1単位時間及び特別活動(LHR)1単位時間
10/20	伝統玩具製作	高齢者団体	特別活動(学校行事)2単位時間
11/6	リンゴ狩り	保育園	特別活動(学校行事)2単位時間

第3学年（選択者のみ）

教育課程上の位置付け：各教科・科目（社会福祉実習）

	日程	項目	内容	異学年交流
1 学期	4/12	事前学習	社会福祉基礎(2年)の振り返り・高齢者施設実習に向けて・自己分析アンケート	
	4/19	高齢者施設実習	歌遊び	2年
	4/26	振り返り		
	5/10	講義	(風邪流行のため実習中止)	
	5/17	事前学習	フォークダンスの練習	
	5/24	高齢者施設実習	フォークダンス	2年
	5/31	振り返り・事前学習	七夕飾りの準備	
	6/7	高齢者施設実習	七夕飾り作製	2年
	6/14	高齢者施設実習	入浴後の介助	
	6/21	振り返り		
	6/28	講義		
	7/5	講義		
	7/7	期末考査		
7/14	特別時間割			
夏 季 休 業				
2 学期	9/6	高齢者施設実習	入浴後の介助 喫茶の手伝い	
	9/13	振り返り・講義		
	9/20	高齢者施設実習	運動会	2年
	9/27	振り返り		
	10/4	振り返り・講義	高齢者施設実習のまとめ	
	10/11	講義		
	10/18	講義		
	10/25	事前学習	保育園実習に向けて・よさこい・伝統玩具遊びの準備	
	11/1	保育園実習	よさこい・伝統玩具遊び	2年
	11/8	保育園実習	よさこい・紙飛行機・自由遊び	2年
	11/15	振り返り・講義		
	11/22	保育園実習	よさこい・自由遊び	2年
	11/29	振り返り 講義		
12/6	期末考査			
12/13	特別時間割			
冬 季 休 業				
3 学期	1/10	事前学習	よさこいの練習	
	1/17	保育園実習	よさこい・正月遊び	2年
	1/24	振り返り・講義	保育園実習のまとめ・1年間のまとめ	
	1/31	学年末考査		

1日2単位時間。ただし、定期考査と特別時間割は1単位時間。

各教科・科目（社会福祉基礎）以外の時間に、以下の活動を行った。

日程	内容	関係施設・組織	教育課程上の位置付け
9/25	サツマイモ収穫	保育園	総合的な学習の時間1単位時間及び特別活動(LHR)1単位時間
10/20	伝統玩具製作	高齢者団体	特別活動(学校行事)2単位時間
11/6	リンゴ狩り	保育園	特別活動(学校行事)2単位時間

平成19年度年間指導実績

第1学年

日程	項目	内容	教育課程上の位置付け	異学年交流		
1学期	4/12	事前学習	趣旨理解・自己分析アンケート	総合的な学習の時間		
	4/19	事前学習	乳幼児との交流のポイント	総合的な学習の時間	2年	
	4/26	事前学習	名札の製作・自己紹介の準備	総合的な学習の時間		
	5/10	乳幼児との交流	自己紹介・自由遊び	総合的な学習の時間	2年	
				特別活動(LHR)		
	5/24	乳幼児との交流	自由遊び	総合的な学習の時間	2年	
				特別活動(LHR)		
	6/21	事前学習	風船バレー・宝探しの準備	総合的な学習の時間	2年	
	6/28	乳幼児との交流	風船バレー・宝探し	総合的な学習の時間	2年	
特別活動(LHR)						
6/29	むつみあい学習	眠りと心	各教科・科目(理・総合A)			
7/5	乳幼児との交流	七夕飾り・自由遊び	総合的な学習の時間			
			特別活動(LHR)			
夏季休業						
2学期	8/30	事前学習	フォークダンスの練習・準備	総合的な学習の時間	2年	
				特別活動(LHR)		
	9/6	乳幼児との交流	フォークダンス	総合的な学習の時間	2年	
				特別活動(LHR)		
	9/12	むつみあい学習	赤ちゃんの誕生と生命	各教科・科目(保健体育)		
	9/13	学習発表	プレゼンテーション準備	総合的な学習の時間		
				特別活動(LHR)		
	9/21	乳幼児との交流	サツマイモ掘り	総合的な学習の時間	2・3年	
				特別活動(LHR)		
	10/7	学習発表	文化祭で"むつみあい"のプレゼンテーション	特別活動(学校行事)		
	10/11	むつみあい学習	保育園児の発達と遊びの変化	各教科・科目(家庭基礎)		
				振り返り	乳幼児との交流を振り返って	総合的な学習の時間
				オリエンテーション	高齢者との交流のポイント	特別活動(LHR)
	10/23	事前学習	車イス操作の練習 高齢者疑似体験		2年	
10/25	高齢者との交流	散歩介助・カルタ遊び	総合的な学習の時間	2年		
			特別活動(LHR)			
11/8	乳幼児との交流	リンゴ狩り	総合的な学習の時間	2・3年		
			特別活動(LHR)			
11/15	振り返り		総合的な学習の時間			
12/6	高齢者団体との交流	伝統玩具の作製	特別活動(学校行事)	2・3年		
			特別活動(学校行事)			
冬季休業						
3学期	1/15	乳幼児・小学生との交流	どんと焼き	総合的な学習の時間	2・3年	
				特別活動(LHR)		
	1/21	むつみあい学習	生活の中のメディア	各教科・科目(情報A)		
	2/4	むつみあい学習	生きるとは	各教科・科目(国語総合)		
	2/7	高齢者との交流	音遊びゲーム・クイズ「ことわざ発見」	総合的な学習の時間	2年	
				特別活動(LHR)		
2/21	高齢者との交流	ボーリングクイズ・新聞紙ゲーム「長くちぎろう」	総合的な学習の時間	2年		
			特別活動(LHR)			
2/22	振り返り	自己分析アンケート・高齢者の交刺に関するまとめ	各教科・科目(国語総合)			

第2学年

教育課程上の位置付け：各教科・科目（社会福祉基礎）

	日程	項目	内容	異学年交流
1学期	4/12	事前学習	乳幼児との交流のポイントの再確認(KJ法)	
	4/19	事前学習	1年への交流のポイントのアドバイス	1年
	4/26	講義		
	5/10	保育園実習	自己紹介・自由遊び	1年
	5/17	振り返り・講義		
	5/24	保育園実習	自由遊び	1年
	5/31	振り返り・講義		
	6/7	講義		
	6/21	事前学習・講義	風船パレー・宝探しの準備	1年
	6/28	保育園実習	風船パレー・宝探し	1年
	7/5	振り返り・講義		
	7/9	期末考査		
7/12	講義			
7/19	講義			
夏 季 休 業				
2学期	8/30	事前学習	フォークダンスの練習・準備	1年
	9/6	保育園実習	フォークダンス	1年
	9/13	振り返り・講義		
	9/20	講義		
	9/27	保育園実習	自由遊び	
	10/4	振り返り・講義		
	10/11	講義		
	10/18	振り返り	保育園実習の振り返り(ポスター発表)	
	10/25	むつみ園実習	散歩介助・カルタ遊び	1年
	11/1	振り返り・講義		
	11/8	講義		
	11/15	講義		1年
	11/22	講義		
	11/29	講義		
12/6	期末考査			
12/13	講義			
冬 季 休 業				
3学期	1/10	講義		
	1/15	保育園実習	どんと焼き(むつみ小学校主催)	1・3年
	1/24	振り返り・事前学習	音遊びゲーム・クイズ「ことわざ発見」の準備	
	1/31	講義・事前学習	音遊びゲーム・クイズ「ことわざ発見」の準備	
	2/7	むつみ園実習	音遊びゲーム・クイズ「ことわざ発見」	1年
	2/14	講義・事前学習	ボーリングクイズ・新聞紙ゲーム「長くちぎろう」の準備	
	2/21	むつみ園実習	ボーリングクイズ・新聞紙ゲーム「長くちぎろう」	1年
	2/28	振り返り	むつみ園実習の振り返り・自己分析アンケート	
	3/11	学年末考査		
3/13	講義			

1日2単位時間。ただし、6月7日、3月13日及び定期考査は1単位時間。

各教科・科目（社会福祉基礎）以外の時間に、以下の活動を行った。

日程	内容	関係施設・組織	教育課程上の位置付け
9/21	サツマイモ収穫	保育園	総合的な学習の時間1単位時間及び特別活動(LHR)1単位時間
11/8	リンゴ狩り	保育園	総合的な学習の時間1単位時間及び特別活動(LHR)1単位時間
12/6	伝統玩具製作	高齢者団体	特別活動(学校行事)2単位時間

第3学年

教育課程上の位置付け：各教科・科目（社会福祉実習）

	日程	項目	内容
1 学期	4/10	事前学習	1・2年の振り返り
	4/17	事前学習	風船バレーの準備
	4/24	高齢者施設実習	風船バレー
	5/1	振り返り・講義	
	5/8	講義	
	5/29	事前学習	ペットボトルポーリングの準備
	6/5	高齢者施設実習	ペットボトルポーリング
	6/19	振り返り・講義	
	6/26	講義	
	7/3	講義	
7/10	期末考査		
7/18	講義		
夏 季 休 業			
2 学期	8/28	事前学習	足ナリポーリングの準備
	9/4	高齢者施設実習	足ナリポーリング
	9/11	振り返り・講義	
	9/18	講義	
	9/25	保育園実習	運動会の練習の手伝い
	10/2	振り返り・講義	
	10/16	保育園実習	乾布摩擦でダンス・自由遊び
	10/30	振り返り・講義	
	11/13	保育園実習	発表会準備の手伝い・自由遊び
	11/20	振り返り・講義	
	12/5	期末考査	
12/11	講義		
冬 季 休 業			
3 学期	1/8	事前学習	どんど焼きの準備
	1/15	保育園実習	どんど焼き（小学校主催）
	1/22	あいさつ・講義	お別れのあいさつ（保育園とむつみ園）
	1/29	学年末考査	

1日2単位時間。ただし、7月3日、7月18日、12月11日及び定期考査は1単位時間。

各教科・科目（社会福祉基礎）以外の時間に、以下の活動を行った。

日程	内容	関係施設・組織	教育課程上の位置付け
9/21	サツマイモ収穫	保育園	総合的な学習の時間1単位時間及び特別活動（LHR）1単位時間
11/8	リンゴ狩り	保育園	総合的な学習の時間1単位時間及び特別活動（LHR）1単位時間
12/6	伝統玩具製作	高齢者団体	特別活動（学校行事）2単位時間

(2) 計画の趣旨と指導上の留意点

平成17年度

計画の趣旨

第1学年を対象とし、乳幼児や高齢者との交流体験活動に加え、ボランティア活動・勤労生産体験活動・生活習慣予防教室等、多様な体験活動を展開することで、思いやり・自己肯定感・勤労観・命を大切に作る心等、幅広い人間性を育成するようにした。

指導上の留意点

- ・交流体験活動を第1期(6月)・第2期(8~9月)の2期に分けた。第1期は選択制とし、保育園と特別養護老人ホームのどちらで活動を行うかを生徒自らに選択させることで、主体的・意欲的に取り組めるようにした。
- ・取組の初年度ということもあり、円滑に導入できるよう、年間の活動内容については教員が予め年度当初に設定するようにした。
- ・高齢者との交流体験活動では、高齢者や施設職員から感謝され、「役立ち感」を実感させることをねらい、散歩介助やシーツ交換等、施設の業務にできるだけ取り組ませるようにした。
- ・教員による生徒の行動観察や振り返りの内容の評価だけでなく、生徒の自己分析アンケートや関係施設職員からの意見聴取等を行うことで、交流体験活動の教育効果を客観的に評価し、指導方法・内容の改善を図るようにした。



写真1 テキスト『むつみあい』

平成18年度

計画の趣旨

第1・2学年及び第3学年の一部(社会福祉実習選択者)を対象とし、「役立ち感」を実感させ、自己肯定感や人とかがわろうとする力を育成し、他者を思いやる心を育むことに主眼を置き、これに最も効果の大きかった乳幼児や高齢者との交流体験活動に特化して取り組むようにした。また、交流体験活動で学んだことを、



写真2 むつみあい学習「生と死」
『「死の医学」への日記』の一節「生きるとは」を読み、
“生きるとは ”というテーマで意見交換を行った。

校内の人間関係につなげられるよう、グループワークも取り入れた。

指導上の留意点

- ・ 独自に作成した年間使用のテキスト『むつみあい』（写真1）を用い、1年間の学習活動の全体像を把握し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにした。
- ・ テキストには、年間計画・交流の留意点等に加え、「赤ちゃんの生命と誕生」・「保育園児の遊びの変化と保育」・「生と死」（写真2）等について学習する項目を設け、交流体験活動の事前指導に活用するとともに、交流から学んだことをより深められるようにした。（図2・3・4）
- ・ 「赤ちゃんの生命と誕生」等の項目は、各教科・科目において実施し、横断的な学習になるようにした。

2. 活動日誌

年	月	日	曜日	天気
活動場所	活動事項	気づき・感想		
氏名				
1月11日(水)				
1月12日(木)				
1月13日(金)				
1月14日(土)				
1月15日(日)				
1月16日(月)				
1月17日(火)				
1月18日(水)				
1月19日(木)				
1月20日(金)				
1月21日(土)				
1月22日(日)				
1月23日(月)				
1月24日(火)				
1月25日(水)				
1月26日(木)				
1月27日(金)				
1月28日(土)				
1月29日(日)				
1月30日(月)				
1月31日(火)				

図2 活動日誌（テキスト『むつみあい』より抜粋）

2 命の意味

(1) 命のはじまり ～赤ちゃんの生命と誕生～

ビデオ『赤ちゃん このすばらしき生命』を観て、どんなことを感じたか。自分や自分の周りの人たちにしている思いができてきたのではないかな。

保育園の園児たちと同じように、君たちも自分の周りの人たちに大切にされながらきたのだ。そんな自分の存在について考えてみよう。

A ビデオを観て

『赤ちゃん このすばらしき生命』を見て、どのようなことを感じましたか？

① 赤ちゃんの親について

② 産まれてくる赤ちゃんについて

B 自分という存在

周りの人にとって、自分とはどのような存在だろうか？

・私は、家族にとって _____ (存在)です。

・私は、友達にとって _____ (存在)です。

図3 むつみあい学習「赤ちゃんの生命と誕生」（テキスト『むつみあい』より抜粋）

(2) 命のはぐくみ ～保育園児の遊びの変化と保育～

A 保育園児の発達と遊びの変化

保育園児との交流活動では、園児が年齢を違えてどのように成長するか知っておくスムーズに活動することができる。発達には個人差があるが、大まかなめやすを示すと表1のようになる。

ところで、交流活動の中心は園児との「遊び」である。乳幼児は、「遊びが子どもの生活のすべてである」といわれるように、遊びの中に発達の様子があらわれる。はじめはぼんやりと周りの様子をみていた子ども(1)が、1-2歳ごろから他の子どもの姿を眺めるようになり、3歳ごろには他の子どものそばで、お互いのやり取りをきかんにする(2)ようになる。4歳になると他の子ども(3)になる(4)。さらに、6歳になるころには、仲間目録や(5)で砂場でダムを作るといったようなことができるようになる。

また、遊びの内容も、乳児のころは、がらがらなど動くものや音の出るものを目で追って楽しむ程度だったものが、(6)歳ごろから、積み木をロケットに見立てたり、バスの運転手のまねをしたりして楽しむようになる。(7)歳ぐらいからは、他の子どもと「ままごと」のような身近な人の生活を取り入れた「ごっこ遊び」を楽しむようになり、成長とともに「お店屋さんごっこ」のようにさまざまな活動を取り入れ内容は複雑なものになる。「ごっこ遊び」は、子どもたちの願いが込められた遊びであり、子どもを知るには重要なポイントである。

B 保育とは

保育園児と交流するとき、たとえば「Aちゃんの家の近くに電車が走っている興味がある。」といった具合に、一人ひとりの園児の育ちや子どもをとりまく状況

乳幼児
保育園児とい
歳までさまざま
いる。このうち
「乳児」…0歳
「幼児」…1歳

図4 むつみあい学習「保育園児の遊びの変化と保育」（テキスト『むつみあい』より抜粋）

平成19年度

計画の趣旨

全校生徒を対象とし、前年度と同様に乳幼児や高齢者との交流体験活動を中心に取り組んだ。これまでは教員が活動内容を設定していたが、生徒に活動内容を立案させることで、より主体的に取り組むことができようにした。交流の留意点等を上級生が下級生に教える時間を設け、上級生自身がそれまでの活動を振り返るとともに、「教えるという体験」を通して、自己肯定感を高められるようにした(写真3)。また、施設での活動にも第1学年・第2学年合同で取り組ませることで、異学年交流を促し、校内の人間関係づくりを図った。



写真3 事前学習「乳幼児との交流のポイント」年度当初に、2年生がKJ法でまとめた交流のポイントを1年生に教えた。昨年度の写真を見ながら、2年生は昨年度を振り返り、1年生は交流への期待を膨らませた。

指導上の留意点

- ・生徒が交流体験活動の趣旨を十分に理解していないことが学習効果を上げる妨げとなっていることが過去の取組からうかがえたため、年度当初だけでなく、年度の途中にも必要に応じて趣旨の説明を行うようにした。
- ・工作やゲーム、レクリエーション等の活動に偏り過ぎず、自由な交流の時間をバランスよく設けることで、自主的な活動になるようにした。
- ・文化祭での学習発表だけでなく、振り返りの内容を教室で発表させたり、ポスター発表(写真4)をさせたりするなど、学んだことを生徒間で共有できる機会を増やした。



写真4 ポスター発表
交流体験活動で学んだことをポスターにまとめ、ポスターセッションを行った後、廊下に掲示した。

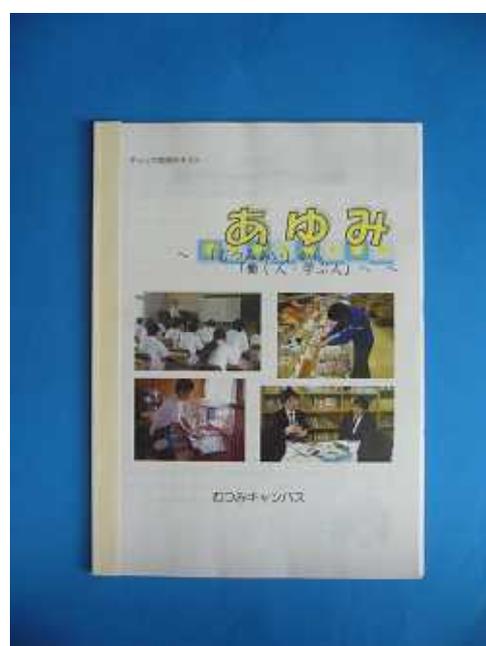


写真5 キャリア教育テキスト『あゆみ』

(3) 3年間の取組の推移 (概要)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
対象生徒	第1学年	第1・2学年及び第3学年の一部	全校生徒
教育課程上の位置付け及び指導時数	【1年】 計39単位時間 特別活動(LHR17、学校行事4) (21) 総合的な学習の時間(12) 各教科・科目(家基)(6)	【1年】 計47単位時間 特別活動(LHR19、学校行事5) (24) 総合的な学習の時間(17) 各教科・科目(家基4、情A1、国総1)(6) ----- 【2年】 計56単位時間 各教科・科目(社基) (50) 特別活動(LHR1、学校行事4) (5) 総合的な学習の時間(1) ----- 【3年】 計48単位時間 各教科・科目(社実) (42) 特別活動(LHR1、学校行事4) (5) 総合的な学習の時間(1)	【1年】 計42単位時間 特別活動(LHR14、学校行事3) (17) 総合的な学習の時間(19) 各教科・科目(家基1、情A1、国総2、理A1、保体1) (6) ----- 【2年】 計45単位時間 各教科・科目(社基) (39) 特別活動(LHR2、学校行事2) (4) 総合的な学習の時間(2) ----- 【3年】 計36単位時間 各教科・科目(社実) (30) 特別活動(LHR2、学校行事2) (4) 総合的な学習の時間(2)
活動内容	【1年】 交流体験活動 勤労生産体験活動 ボランティア活動 学習発表 生活習慣病予防教室	【1年】 交流体験活動 むつみあい学習 グループワーク 学習発表 ----- 【2年】 交流体験活動 ----- 【3年】 交流体験活動	【1年】 交流体験活動 むつみあい学習 学習発表 ----- 【2年】 交流体験活動 ----- 【3年】 交流体験活動
交流体験活動の実施時期	6月、8～9月	通 年	通 年
交流体験活動の回数	【1年】 乳幼児との交流 6回 (うち4回は選択) 高齢者との交流 6回 (うち4回は選択) 聴覚障害者との交流 1回	【1年】 乳幼児との交流 10回 高齢者との交流 5回 ----- 【2年】 乳幼児との交流 9回 高齢者との交流 5回 ----- 【3年】 乳幼児との交流 6回 高齢者との交流 7回	【1年】 乳幼児との交流 8回 高齢者との交流 4回 ----- 【2年】 乳幼児との交流 8回 高齢者との交流 4回 ----- 【3年】 乳幼児との交流 6回 高齢者との交流 4回
交流体験活動の内容の設定	教員が年度当初に年間の設定を行った。	教員が年度当初に年間の設定を行った。	年度当初には未定で、その都度生徒が主体的に設定した。
異学年交流		学校行事を全学年合同で実施した。	交流体験活動(一部の事前学習を含む)を1・2年合同で実施した。 学校行事を全学年合同で実施した。
他領域との関連		関連する科目を増やし、より横断的な学習になるようにした。	キャリア教育テキストの中に、“むつみあい”に関する項目を設けるなど、キャリア教育との関連付けを明確化した。 異学年合同の活動を増やすことで校内の人間関係づくりを促すなど、生徒指導との一体化を図った。 関連する科目をさらに増やし、より一層横断的な学習になるようにした。

(1) 校内の指導体制

平成17年度

推進委員会（校長・教頭・教務課長・1年担任）を運営の主体とし、指導計画の立案、事前・事後指導、教材研究、関係施設との連絡・調整等を行った。また、文部科学省の「豊かな体験活動推進事業（命の大切さを学ばせる体験活動に関する調査研究）」の実施要領に基づき、学校関係者及び外部者で構成する学校支援委員会（表1）を設置した。学校支援委員会においては、関係者の連携・協力の下、体験活動の場や機会の開拓、指導者の確保、体験活動の円滑な実施への協力等、体験活動の充実に資する取組を行った。

表1 学校支援委員会

所属	職名	備考
学校	校長	
	教頭	
	教務課長	
	1年担任 兼 事業担当者	対象生徒の担任
関係施設	保育園長	
地域	地域保護司会長	
保護者	P T A 会長	

平成18年度

校長・教頭・事業担当者（社会福祉基礎・社会福祉実習担任）・教務課長（第1学年正担任兼任）・第1学年副担任の5名でプロジェクトチーム（前年度の推進委員会に相当する）を組織し、指導計画の立案、関係施設との連絡・調整等、指導体制の整備を中心に取り組んだ。さらに、プロジェクトチームに養護教諭及び関係教科の担任を加え、表2のとおり業務を分担し、全校体制で本活動の運営にあたった。なお、学校支援委員会は前年度と同様の構成で組織した。

表2 業務分担

項目	内容	担当
総括	連絡調整・県教委関係資料作成・集録の作成等	事業担当者・教頭
指導	事前学習、活動日誌作成の指導、振り返りの指導、レクリエーションの指導	1年正副担任
教材研究	レクリエーション・グループワーク等の考案、テキスト『むつみあい』の改訂	プロジェクトチーム全員
教科指導	関連する内容の指導	当該教科担任
渉外	活動計画の調整、活動内容の検討	事業担当者
調査	生徒を対象とした生活実態調査・意識調査	養護教諭
広報	保護者や地域を対象とした広報誌の作成	事業担当者
記録	写真・映像の記録と保存	1年副担任

平成19年度

プロジェクトチームの構成を教頭・推進委員（前年度の事業担当者に相当、社会福祉基礎及び社会福祉実習担任）・第1学年担任及び副担任の4名とした。プロジェクトチームに養護教諭及び関係教科の担任を加え、表3のとおり業務を分担した。なお、学校支援委員会は、関係施設との連携体制が整い、地域の理解も得られるようになったことから、調査研究協力校の受託期間終了の時期（平成18年度末）に合わせ、解散することとした。

表3 業務分担

項目	内容	担当
総括	連絡調整、集録の作成	推進委員
企画・立案	指導計画の立案	推進委員
指導	事前指導、事後指導（日誌記入等）	1年正副担任、社会福祉基礎・実習担任
教材研究	子どもの遊びやレクリエーションの情報収集、テキスト『むつみあい』の改訂	推進委員
教科指導	関連する内容の指導	当該教科担任
渉外	計画の調整、活動内容の調整	推進委員
調査	生活実態調査、意識調査	養護教諭
広報	広報誌の作成・配付	1年副担任
記録	写真・映像の記録と保存	1年副担任、社会福祉実習担任

4

活動の様子

(1) 記録写真

平成17年度



フォークダンス 6月14日(保育園) 1年
自分たちも初めてのフォークダンスを練習し、ぎこちないながらも一生懸命園児に教えた。



折り紙 6月15日(保育園) 1年
手早く折り紙を折る生徒の姿を見て、園児が「教えて」とせがみ、生徒はまんざらでもない様子だった。



紙人形劇 8月30日(保育園) 1年
何時間もかけて紙人形劇の練習をした。本番では緊張したが、園児に楽しんでもらえ、達成感を感じた。



昼寝 9月1日(保育園) 1年
昼寝の時間に寝かし付けを行った。「遊んで。」とせがむ園児をやさしく諭し、眠りにつくまでそばで見守った。



給食指導 9月5日(保育園) 1年
園児を席に着かせ、一緒に昼食をとった。食を共にすることで、より一層関係が深まったように思う。



聴覚障害者との交流 6月27日 1年
聴覚障害者と手話指導員を招聘し、聴覚障害者の講話を聞いた後、手話の練習をし、最後に手話ソングを歌った。障害を超えた交流の大切さを学んだ。



高齢者疑似体験 5月9日 1年
 高齢者との交流に向けた事前学習の一環として高齢者疑似体験を行った。高齢者の身体的・心理的な負担の大きさを実感し、交流の際に留意すべきことを考えた。



散歩介助 6月17日(特養) 1年
 施設周辺へ散歩に出た。慣れない車椅子操作だったが、心を込めて介助した。夏場だったため、帽子をかぶせてあげるなど、やさしさを見せた。



昼食準備 6月17日(特養) 1年
 食卓までの誘導、エプロンの装着、配膳等、昼食のための簡単な介助を行った。



フォークダンス 8月30日(特養) 1年
 保育園で行ったフォークダンスも車椅子だと勝手が違い戸惑ったが、目線を合わせてダンスを踊った。



シーツ交換 8月31日(特養) 1年
 施設職員の指導の下、シーツ交換を行った。シワがあると背中が痛くなるため、丁寧に作業を行った。



サツマイモの植え付け 5月30日 全学年
 勤労生産体験活動としてサツマイモの栽培を行った。全校生徒で植え付けを行った。植え付けた後は水やり・除草等の管理を行った。秋には収穫し、スイートポテトに加工して、文化祭の模擬店で販売した。

平成18年度



サツマイモの収穫 9月25日 全学年
これまで本校だけで行っていたサツマイモの栽培に園児を招き、一緒に収穫を行った。堅い土を掘り起こせない園児に代わってイモを掘り出し、頼りにされる喜びを感じた。



散歩 10月4日(保育園) 2年
保育園周辺に散歩に出かけた。手をつないで、車に注意しながら歩いた。はしゃぐ園児に振り回されながらも、楽しく散歩ができた。



リンゴ狩り 11月6日(保育園) 全学年
保育園と合同で近くのリンゴ園でリンゴ狩りを行った。木の高いところになっているリンゴを採ってあげたり、ナイフで器用に皮を剥いてあげたりした。



文化祭 10月1日 全学年
本校の文化祭に園児を招き、交流を深めた。ステージ発表部門では園児にも発表をしてもらった。



絵本の読み聞かせ 1月31日(保育園) 2年
園児が楽しんでくれそうな絵本を選び、何度も読み聞かせの練習をした。園児は食い入るように聞いてくれ、生徒は達成感を得た。



伝統玩具の作製 10月20日(高齢者団体) 全学年
地域の高齢者団体を学校に招き、竹馬・竹鉄砲・竹とんぼ・お手玉の作製を指導していただいた。高齢者の方々の知恵と技術に尊敬の念を深めた。



伝統玩具遊び 11月1日(保育園) 2・3年
作製した竹馬等を保育園に持っていき、園児と一緒に遊んだ。



ペットボトルボーリング 1月29日(特養) 1年
レクリエーションの時間に、廃材を利用したペットボトルボーリングを行った。高齢者には難しいところがあることがわかり、次回に課題を残した。



フォークダンス 2月5日(特養) 1年
練習を繰り返してきたフォークダンス。なかなかうまくはいかなかったが、高齢者の方々に楽しんでいただけた様子に満足した。



清掃 6月17日(特養) 2年
施設の清潔を保つことは重要なこと。食堂を中心に丁寧に清掃を行った。お世話になっている施設への恩返しでもある。



七夕飾りの作製 6月7日(特養) 2・3年
七夕飾りを一緒に作製した。高齢者の方々はハサミを思うに使用できないようであったが、やさしく手を添えて作製した。



喫茶の手伝い 9月6日(特養) 3年
高齢者の方々が楽しみにされている喫茶の時間。心を込めてお茶を配った。「ありがとう」の言葉に思わず笑みがこぼれた。

平成19年度



昨年度の振り返り(KJ法) 4月12日 2年
1年次の活動を振り返り、KJ法を用いて乳幼児との交流のポイントをまとめた。



事前学習 4月19日 1・2年
前回KJ法でまとめた乳幼児との交流のポイントを、2年生が1年生に教えた。2年生は先輩としての役割を果たしたことで自信をつけた。



自由遊び 5月24日(保育園) 1・2年
園児と一緒に外遊びをした。元気に走り回り、飛びついてくる園児に圧倒されながらも、同じ目線で遊ぶことができた。



七夕飾りの作製 7月5日(保育園) 1年
七夕飾りの作製と笹への飾り付けを行った。うまくできない園児にやさしく手を差し伸べた。短冊と一緒に願い事を書いた。



フォークダンスの準備 8月30日 1・2年
2年生が初めての1年生にフォークダンスを教えた。その後、本番の段取りを議論し、共に練習していった。2年生は1年次の経験を生かした。



どんど焼き 1月15日(保育園・小学校) 全学年
小学校主催のどんど焼きに本校と保育園が参加させてもらい、園児・小学生・高校生で交流を図った。普段かかわりの少ない小学生と交流することができ、新たな発見をした。



風船バレー 4月24日(特養) 3年
高齢者の方々にもやりやすいスポーツをということで、風船バレーを企画した。少しでも多く風船に触れていただけるよう心がけた。



会話 9月4日(特養) 3年
レクリエーションの合間には、自分たちから高齢者の方々に声をかけ、会話を楽しんだ。耳の不自由な方も多いため、大きな声でゆっくりと話しかけた。



車椅子操作の練習 10月23日(特養) 1・2年
高齢者との交流に入る前に、2年生が1年生に車椅子操作の方法を教えた。1年次の経験を生かすことができた。



カルタ遊び 10月25日(特養) 1・2年
高齢者の方々が慣れ親しんでいるカルタと一緒に遊んだ。手の届かない札をとりやすいように並べ替えるなど、細やかな気配りをした。



しめ飾りの作製 12月6日(高齢者団体) 全学年
地域の高齢者団体を学校に招き、しめ飾りの作り方を教えていただいた。初めてのしめ飾りづくりに熱心に取り組んだ。特養での交流とは違う視点で交流ができた。



音当てゲーム 2月7日 1・2年
レクリエーションの事例集に載っていたゲームをアレンジして行った。思うように進行できなかった。生徒同士の役割分担・意志の疎通等、次回に課題を残した。

(2) 生徒の感想

乳幼児との交流を振り返って

- ・自分から積極的に行動すると、園児との距離が縮まることを学びました。
- ・紙芝居では、たくさん練習した甲斐があって、とても喜んでくれたのでうれしかった。
- ・心をなかなか開いてくれなかった女の子が、心を開いてくれたときは、自分がやっと認められたと思った。
- ・絵本の読み聞かせをしたときに、「次、これ読んで。」と言われました。そのときはうれしかったです。
- ・園児が寄り添って来てくれてうれしかった。
- ・園児たちが名前を覚えてくれていたことが一番うれしかったです。
- ・子どもは全く言うことを聞いてくれないし、わがままを言うし、何よりも一番困ったことは、子どもの言っていることがわからないということです。しかし、「昔は自分もこうだったんだろうな。」と思い、大人として子どものそういうところも受け入れていこうと考え方が変わってきました。
- ・1年生のときはあまり園児と話をしたり、遊ぶこともうまくできなかったのですが、2年生になって最初の園児との交流で、一人の園児が「一緒に遊ぼう。」と誘ってくれて、うれしかったし、自信もつきました。それから、自分から話したりできるようになりました。
- ・2年生になって、やっと、園児の様子から、何をしてほしいかを理解できるようになりました。
- ・1年生のときは保育園の実習はいやだと思っていました。でも、2年生になって少しだけ変わりました。子どもはかわいいと思えるようになり、無理せず楽に交流できるようになりました。
- ・昔はちょっとしたことでイライラしたり、物に当たったりしていましたが、園児との交流を通して、我慢することができるようになりました。
- ・最初は園児たちと遊んだりするのが本当に嫌でした。それでも何回か実習に行くことによって、相手が何をしたいかなどを考えられるようになり、園児に合わせて遊んだりすることができるようになりました。
- ・今、幼い子供の虐待や殺人事件などがありますが、自分は園児を見ると、どうして子供を殺してしまうのかと思います。園児と交流していくうちに、そんなことは絶対にあってはならないと思うようになりました。
- ・私は、保育園での交流を通して、子どものお世話や育てることは半端な気持ちではできないし、命を育てることは容易にできることではないと思いました。

高齢者との交流を振り返って

- ・お年寄りの方々はとても優しく、ゲームの説明がうまくできなくても笑顔で見えてくれて、ゲームのときも楽しくやったださって、とてもうれしい気持ちになりました。
- ・話しかけると、ちゃんと笑って答えてくれたのでとてもうれしかったです。
- ・高齢者は一人ひとりいろいろなハンデがあります。家族がいない人は、自分が優しくしてほしいはずなのに、自分たちにとっても優しくしてくれます。
- ・高齢者と接することが苦手だったけど、今回行って見て、すごくいい人達ばかりだし、「いい体験をしてるな。」と思った。
- ・最後のお別れの握手のときに「来年もまた会いましょう。」「元気で。」と励まされたり、涙を流されておられた高齢者がいらっしまったので、自分も涙が出てきた。
- ・自分たちが作ったかしわ餅を配っていくと「ありがとう。」とか「ごちそうさま。」と言われ、すごくうれしかった。
- ・1年生のときから高齢者と交流してきましたが、最初のころは全然かかわることができずにいました。しかし、月日を重ねていくうちに、自分から積極的に交流できるようになりました。
- ・初めて高齢者と交流したときは、どうすれば仲良くなれるかととても不安でした。しかし、気持ちのよい挨拶をして、大きな声ではっきりと話しかければ、高齢者の方も心を開いてくれて、楽しく会話ができることに気が付きました。
- ・私は高齢者と交流するのがあまり好きではありませんでした。でも、実習を重ねていくうち、何を考えているのか、何をしたいのかなど、相手の気持ちがわかるようになってきた気がしました。
- ・特養に行って、人は一人では生きていけないということを学びました。
- ・今回の体験学習を通して一番感じたことは、今、どんなに体が不自由だったり、認知症になっていたりしても、その人たちがいたからこそ、今、私たちが暮らせる社会があるのだということです。
- ・君が自分から高齢者の方に話しかけていたので感心しました。

活動全体を通して

- ・他者と接するときは、相手のことを知り、思いやることが大切。
- ・一人ひとりが大切にされる社会にするために自分が取り組めることは、お互いの気持ちを理解しあって、助け合うことです。
- ・この体験を通して、人とかかわることへの自分の考え方が変わったので、とてもいい体験になりました。
- ・一人ひとり異なる個性をもっている。

- ・自分の個性に自信をもっていいんだ。
- ・家族や友人を大切にしなければならない。
- ・私は人と接することが苦手なので、最初は大丈夫かなと思っていました。実際に交流してみても、失敗や後悔したこともたくさんありました。しかし、交流しているうちに人に喜ばれることがとてもうれしくなって、こんな気持ちもあるんだなと思いました。
- ・人とかわるということは、社会に出ても大切なことなので、今からしっかりと身に付けて生きたいと思います。
- ・人にはそれぞれの意見や思いがあると思います。園児も同じで、一人ひとり考えていることは違います。そして、自分の考えを相手に理解してもらえるように伝えることが大切であることを学びました。
- ・1・2年生のときは自分から進んで交流することができませんでした。3年生になってからは自分から進んで話しかけられるようになりました。
- ・自分で成長したと思うことは、他の人への配慮ができるようになったことだと思います。
- ・活動を通して一番学んだことは、仲間と協力することの大切さです。
- ・自分にも幼かったときがあり、やがて年をとって行くのだなと思った。
- ・最初は、保育園と特養に行くのがとても嫌でした。保育園はうるさくて疲れるし、特養はこっちが言うことになかなか反応してくれないからです。でも、何回か行くうちに、保育園では、昔自分もこんなときがあったんだとか、元気があっていいじゃないかと思うことができるようになりました。特養では、落ち着いてみると、ちゃんと反応してくれているし、話もちゃんとできるようになりました。
- ・この2年間で、自分は、皆で協力すること、がまんすること、自分勝手なことをしないこと、仲間を大切にすること、相手の気持ちを考えることなど、とても多くのことを学ぶことができました。
- ・いつも自分のことを最初に考えるのではなく、相手のことを考えたり、一歩引いて周りのことを考えてから行動するとよいと思いました。
- ・皆が命を抱いて生きている大切な存在であるということを知りました。

異学年合同での実習に取り組んで（平成19年度のみ）

- ・ルールもわかりやすく、園児たちが楽しく遊べていたので、説明していた先輩方はすごいと思った。
- ・1年生とかかわって、協力することの大切さを学びました。
- ・自分たちが1年生に教える立場になり、1年生に教えることを通して、園児との接し方を再確認することができた。

レクリエーションの企画を通して（平成19年度のみ）

- ・団結力が欠けていたので、みんなで力を合わせる大切さを知った。
- ・前回の反省点をしっかり見直すことができ、混乱なく無事に成功することができました。みんなできちんと話し合い、計画を立てることの大切さを知りました。
- ・行動力や決断力などが鍛えられ、とてもためになりました。
- ・一人ひとりがきちんと自分の役割をこなして協力しないと、物事がうまくいかないということを知った。
- ・役割分担をしていましたが、皆が自分のことしか考えておらず、なかなかうまく連携がとれず、困っている人に協力してあげることができなかつたので、うまくいかなかったと思いました。
- ・今回、レクリエーションの企画・運営のリーダーを担当することになり、わからないことが多くありましたが、周りの人たちが協力してくれて、本番では成功しました。とてもいい経験になりました。
- ・レクリエーションを企画するときは、視力が弱かったり、耳が不自由な高齢者もおられるので、そのあたりに対する配慮が大切だと思った。
- ・特養の方々のことをもう少し理解して、レクリエーションの企画をしたほうが良かったと思いました。
- ・どのように接するか、どのように話せばいいか、どんな遊びを喜ぶかなどを学びました。
- ・1学期よりもクラス内の話し合いがスムーズに進むようになった。
- ・レクリエーションを行うときに、生徒同士の連携がうまくいかず、こういうときに、コミュニケーション能力が必要とされるんだなと思いました。
- ・初めて　さんがリーダーをしました。とてもがんばっていました。なかなか見られないので、こういうところもあるんだなと思いました。

キャリア教育テキスト『あゆみ』より「むつみあいに取り組んで」（平成19年度）

自分の適性・能力を知ろう。

- ・自分は子どもとうまく遊んだりする力がないのかなと思いました。しかし、交流を続けていくにつれ、少しはましになったと思います。
- ・園児の自分に対する印象を知りたくなった。
- ・保育園では明るくしようとしたり、小さい子に合わせていたり、笑顔を作ってみたりで、無理をしていたと思います。進路を決めるときは、自分に合った進路にしたい。
- ・自分はまだ子供なのだと思った。園児と本気になって遊んでいたのだから、そのことを実感した。もう少し考えて動き、大人になろうと思った。
- ・にぎやかなところが苦手なので、こういう仕事は自分には合っていないと思いました。

- ・昔から子どもは好きだったけど、交流活動を通して、そのことを再確認できた。
- ・自分自身の姿は、何か幼いような感じがしました。「お兄ちゃん」という感じではなく、「大きい友達」というような感じになっていたと思います。
- ・みんなを引っ張って何かをすることには向いていないと感じた。逆に人に協力して行動する方が向いていると思った。

人の一生について

- ・自分は今こうして自由に行動できるけど、年をとれば、自由がなくなります。人の一生は決して楽なものではないと思いました。
- ・人は誕生すると同時に死に向かっていくのだと思います。
- ・一日一日を大切に生きていかなければならないと思った。
- ・一生に一度の人生を後悔のないようにしたいと思います。
- ・高齢者と交流してみて、命は大切にしたいなと思いました。

困難を乗り越えたこと、成長したところ

- ・ゲームを企画するとき、自分から意見を言えるようになった。1年生のときよりかなり成長した気がします。
- ・前に比べて、我慢できるようになったり、自分の意見を言うことができようになったり、協力することができるようになったりした。
- ・保育園では、園児から「遊ぼう。」と言ってくれて、自信につながった。特養でも自分から声をかけることができるようになりました。

働くこと

- ・自分がもし保育園や特養の職員だったらと思うと、いやだなと思ったり、つらいと思ったりすることがあるけど、人の役に立っているんだと思ったり、うれしくなったり、またがんばろうと思ったりする。嫌なことがあっても乗り越える力がすごく大事。
- ・こういう仕事の大変さがわかった。このようなところで働いている人は、本当にこういう仕事が好きなんだなと思いました。
- ・自分なりに短い時間の中でできるだけ内容の濃いものを出せるようにとがんばったつもりですが、実際に働いている職員の方には遠く及ばないことがわかりました。
- ・保育園や特養の職員の方々はずごいと思ったり、誰にでもできる仕事ではないなと思いました。

成果と課題

(1) 自己分析アンケート

生徒の変容を分析することで“むつみあい”の取組を客観的に評価し、指導の在り方の改善につなげるため、生徒を対象として「自己分析アンケート」（図7）を実施した。そのうち、入学時及び第1学年末に実施したアンケートの結果（図8）を示す。

1 これまでの自分

次の①～⑭の項目について最も近い番号を○印で囲んでください。
 (よ(あてはまる)…1 あてはまる…2 あまりあてはまらない…3 全くあてはまらない…4)

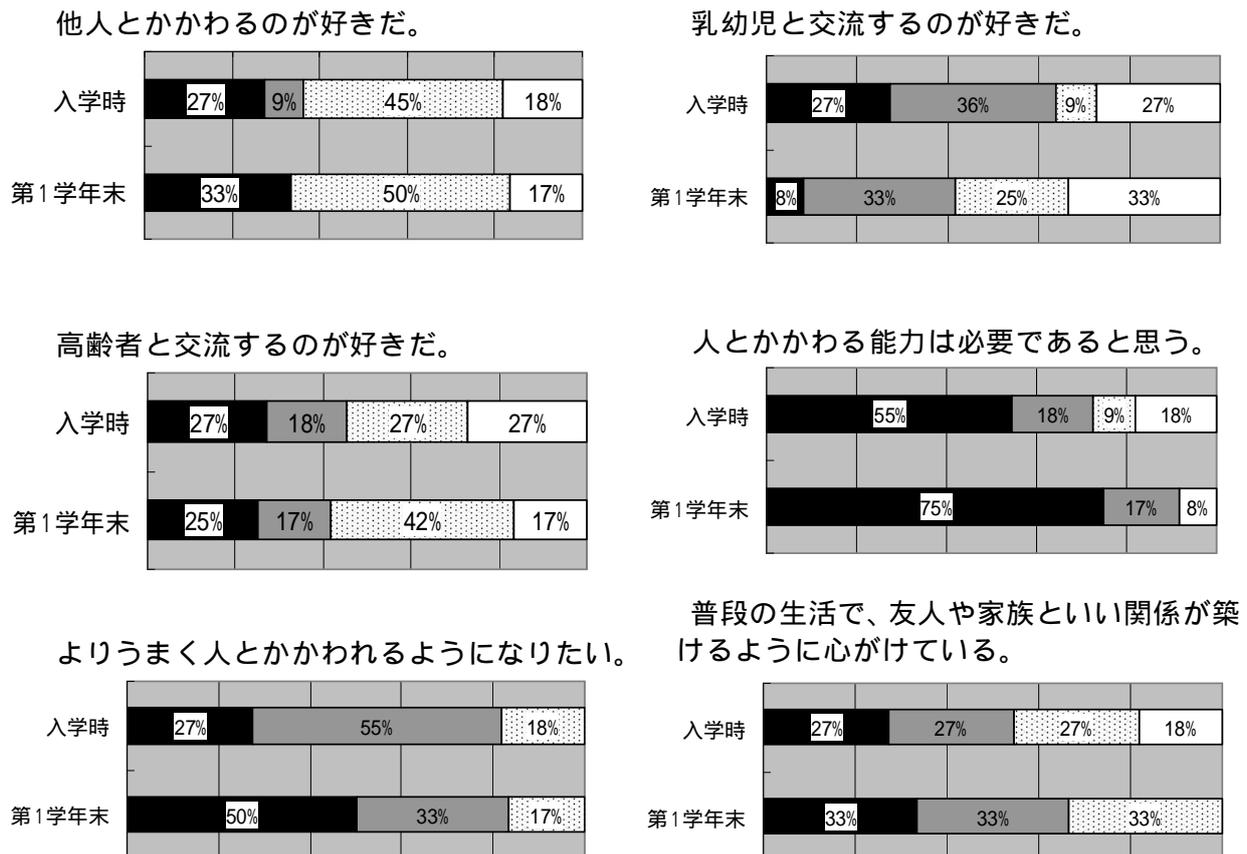
① 他人とかかわるのが好きだ。	(1・2・3・4)
② 乳幼児と交流するのが好きだ。	(1・2・3・4)
③ 高齢者と交流するのが好きだ。	(1・2・3・4)
④ 人とかかわる能力は必要であると思う。	(1・2・3・4)
⑤ よりうまく人とかかわれるようになりたい。	(1・2・3・4)
⑥ 普段の生活で、友人や家族と良い関係が築けるよう心がけている。	(1・2・3・4)
⑦ 他人のよいところによく気が付く。	(1・2・3・4)
⑧ 他人の悪いところがよく目に付く。	(1・2・3・4)
⑨ 人の気持ちを考えて行動する。	(1・2・3・4)
⑩ 自分のことが好きだ。	(1・2・3・4)
⑪ 自分は意味のある存在だ。	(1・2・3・4)
⑫ 生きている実感がある。	(1・2・3・4)
⑬ 自分の命は大切にだ。	(1・2・3・4)
⑭ 人の命は大切にだ。	(1・2・3・4)

2 これからの自分

次の①～⑭の項目について最も近い番号を○印で囲んでください。
 (よ(あてはまる)…1 あてはまる…2 あまりあてはまらない…3 全くあてはまらない…4)

① 他人とかかわるのが好きだ。	(1・2・3・4)
② 乳幼児と交流するのが好きだ。	(1・2・3・4)

図7 自己分析アンケート（テキスト『むつみあい』より抜粋）



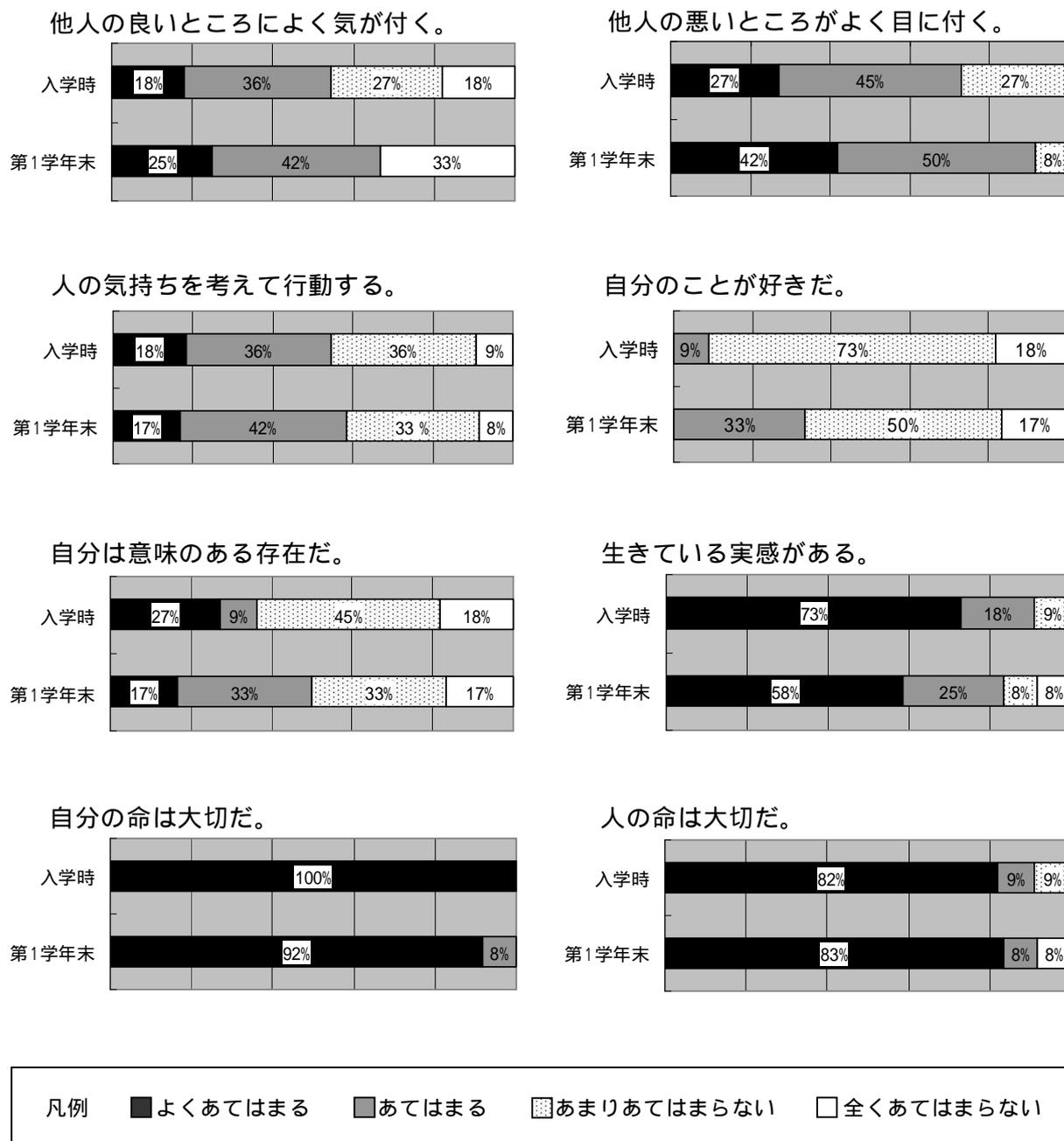


図8 自己分析アンケート

図中の数値は、平成18年度入学生と平成19年度入学生（アンケートの内容が現在のものに改定された以降に入学した生徒）の回答数を合計した値を、百分率で示したものである。

質問 「人とかかわる能力は必要であると思う。」に対して、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が、入学時の55%から第1学年末の75%に増加した。質問 「よりうまく人とかかわれるようになりたい。」という質問に対して、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が、入学時の27%から第1学年末の50%に増加した。この結果から、人とかかわることに対する積極性が向上したものと考えら

れる。このことは、質問 、「 に対して、肯定的回答が若干の増加を示していることからもうかがえる。

質問 「自分のことが好きだ。」に対して、「あてはまる」と回答した生徒の割合が、入学時の9%から第1学年末の33%に増加した。この結果から、自己肯定感が高まっていることがわかった。

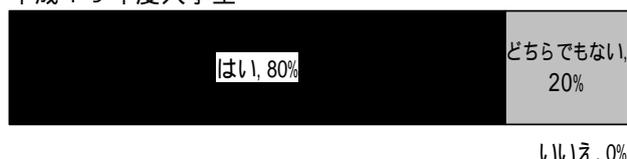
一方で、質問 「乳幼児と交流するのが好きだ。」に対しては、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が、入学時の27%から第1学年末の8%に減少した。また、質問 「他人の悪いところがよく目に付く。」に対しては、「よくあてはまる」及び「あてはまる」と回答した生徒の割合が、入学時の72%から第1学年末の92%に増加した。これらの結果は、園児とは年齢が離れているためにうまくコミュニケーションがとれないなど、1年間の交流を通して、乳幼児との交流の難しさを実感したり、交流活動に取り組む中で生徒同士のかかわりが促されたことにより、互いの良いところ、悪いところがよく見えてきたりしたことによるものではないだろうか。

(3) 学校生活アンケート(平成19年3月実施、生徒対象)

全校生徒を対象として実施している学校生活全般に関するアンケート(年2回実施)の中にある「“むつみあい”はクラス内の人間関係等、普段の学校生活に生かされていますか。」という質問に対する回答の結果を図9に示す。平成17年度入学生に比べ、平成18・19年度入学生の方が、「生かされている」と思っている生徒の割合が高かった。この差異は、平成18・19年度入学生から取り入れた異学年合同の活動の効果が表れてきたことによるものと考えられる。

(質問)「“むつみあい”はクラス内の人間関係等、普段の学校生活に生かされていますか。」

平成19年度入学生



平成18年度入学生



平成17年度入学生

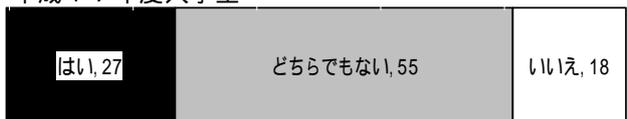


図9 学校生活アンケートの結果

(2) 学校支援委員アンケート(平成18年10月実施)

学校支援委員(3名)を対象として、“むつみあい”に関するアンケートを実施した。そのうちの3項目について、表4に結果を示す。表4からもわかるように、

コミュニケーション能力や他人を思いやる心が育成されるなど、生徒に好ましい変容があったとの評価を得た。なお、“むつみあい”の取組に対する学校支援委員の理解を深めるため、文化祭での学習発表等、生徒の学習の様子を学校支援委員に見ていただく機会を設けるようにした。

表4 学校支援委員アンケートの結果(一部抜粋)

質問項目	とても思う	思う	あまり思わない	全く思わない
体験活動を通じて、生徒に好ましい変容があった。	1	2	0	0
体験活動を通じて学んだことは、コミュニケーション能力や他人を思いやる心等、豊かな人間性の育成につながる。	3	0	0	0
体験活動は有意義である。	2	1	0	0

学校支援委員からは、「昨年よりは、今年の方がより深くかかわっていると感じました。一人ひとりの取組や、人へのかかわり方がやさしく、思いやりをもって接することができるようになってきているように思います。これからもできるだけたくさん“ふれあいの場”をもっていきましょう。」「生徒に生きる喜びを知ってほしいと願いながら、少しでもお役に立てればと思っています。これからもよろしくをお願いします。」等の意見・感想が寄せられた。

(4) 保育園保護者アンケート(平成18年6月実施)

“むつみあい”を関係施設や地域社会にとっても有意義な活動とするため、保育園の園児の保護者(24名)を対象としてアンケートを実施し、取組改善の参考とした。その結果の一部を図10に示す。

(質問)“むつみあい”は、園児にとっても意義のある取組であると思う。



(質問)“むつみあい”は、地域の方にも意義のある取組として受け入れられていると思う。

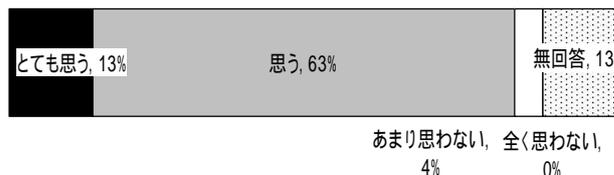


図10 保育園保護者アンケートの結果

“むつみあい”は、園児にとっても意義のある取組であると思う。」という質問に対して、「とても思う」または「思う」と回答した保護者の割合は98%であった。“むつみあい”は、地域の方にも意義のある取組として受け入れられている。」という質問に対して、「とても思う」または「思う」と回答した保護者の割合は74%であった。この結果から、保育園の園児にとっても、地域社会にとっても意義のある取組として認知されていることがわかった。

保護者から、「『明日、お兄ちゃん、お姉ちゃん来るよ。』ととても楽しみにしています。」、「『今日は、お兄ちゃんとお姉ちゃん来たよ。』と嬉しそうに報告してくれます。とても楽しいようです。先日の凧づくりも喜んでいました。家に帰ってからも凧を揚げていました。是非、これからも続けていただきたいと思います。」、「子どもたちにとっても自分たちと違う年代の人たちとかかわることは良いことだと思います。お互いに良い取組なのは。」等の意見・感想をいただいたことから、園児にとっても有意義な取組であると考えてよいであろう。「今の活動状況の内容がよくわかっていない。」、「“むつみあい”について、もっと詳しく教えてほしい。」、「むつみキャンパスの生徒が来られているというのはわかりませんが、そのときにどのような活動を園児としているのかがわかりません。」等の意見・感想からは、“むつみあい”に対する関心の高さがうかがえる一方、保育園の園児の保護者に対する情報提供が不十分であったことが明らかとなり、広報活動の必要性を認識させられた。

(5) 関係施設職員の意見聴取(平成20年3月実施)

保育園職員の意見

回を重ねるたび、園児との接し方が上手になり、言葉掛けも適切になってきました。園児も皆さんが来られるのを楽しみに待つようになりました。よく動いて、遊んでくださるからです。りんご狩り・芋ほり等もとても喜んで、よい思い出になりました。

特別養護老人ホーム職員の意見

一番うれしいことは、触れ合いをするたびにお年寄りに近づいてくれるようになったことです。特に、コミュニケーションをとるのは大変難しいのですが、あきらめずに一生懸命声掛けをしている姿はとても感動しました。また、車椅子の基本操作・声の掛け方等、基本に忠実に実行されていました。触れ合いを重ねるたびに、一人ひとりが目的意識をもち、協力する姿が見えるようになりました。“むつみあい”の目的に少しでも近づけたら幸いに思います。

(6) 本校保護者の意見聴取(平成20年2月実施)

人を思いやることや道徳心を学んでほしいと思います。

園児や高齢者の目線で接することの大切さを感じたと思います。これからも相手の立場になり、思いやりをもっていろいろな方と接してほしいと思います。

“むつみあい”は大変よい取組だと思います。今後もいろいろな体験をして、人として成長してくれたらと思います。これからの活動に期待しています。

乳幼児や高齢者との交流体験活動を通して、生徒は気づき、学び、変容を遂げた。その様子は、生徒の感想やアンケートの結果からもうかがうことができる。生徒にどのような変容があったかを分析し、交流体験の成果を検証する。

(1) 「役立ち感」の育成

「紙芝居では、たくさん練習した甲斐があって、とても喜んでくれたのでうれしかった。」「絵本の読み聞かせをしたとき、『次、これ読んで。』と言われました。そのときはうれしかったです。」「自分たちが作った柏餅を配っていくと、『ありがとう。』とか『ごちそうさま。』と言われ、すごくうれしかった。」「人に喜ばれることがとてもうれしくなって、こんな気持ちもあるんだなと思いました。」等の感想が聞かれた。他人のために何かをすると、相手から感謝されたり、さらに求められたりする。これらの感想からは、生徒がそのことに喜びを感じていることがわかる。このような役立ち感が、自身の存在意義の発見と自己肯定感の育成につながる。このことは、「自分の個性に自信をもっていいんだ。」という感想からうかがうことができる。さらに、自己分析アンケートの質問「自分のことが好きだ。」に対して、「あてはまる」と回答した生徒の割合が、入学時の9%から第1学年末の33%に増加した(p.41参照)ことが、このことを裏付けている。

(2) 「人とかがかわろうとする力」の育成

人とうまくかかわりをもつためには、まずは自らが積極的に働きかけることが大切である。「自分から積極的に行動すると、園児との距離が縮まることを学びました。」と述べた生徒は、このことに気づいたはずである。自己分析アンケートの質問「人とかがかわる能力は必要であると思う。」に対して、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が入学時の55%から第1学年末の75%に増加した。また、質問「よりうまく人とかがかわれるようになりたい。」に対して、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が入学時の27%から第1学年末の50%に増加した(p.40参照)ことも、人とかがかわることに対する積極性の向上を示している。

自分から相手に働きかけることができても、相手を理解し、配慮あるかかわりができなければ、その後のコミュニケーションを成立させることはできない。「相手が何をしたいかを考えられるようになり、園児に合わせて遊んだりすることができるようになりました。」「私は高齢者と交流するのがあまり好きではありませんで

した。でも、実習を重ねていくうちに、相手が何を考えているのか、何をして欲しいのかなど、相手の気持ちがわかるようになってきた気がしました。」、「自分で成長したと思うことは、他人への配慮ができるようになったことだと思います。」という感想からは、相手のことを理解しようとする態度が身に付いてきたことがわかる。特に、レクリエーションの内容を生徒に主体的に決めさせるようにした平成19年度からは、乳幼児や高齢者の特性に、より配慮したかかわりがもてるようになった。「レクリエーションを企画するときは、視力が弱かったり、耳が不自由な高齢者もおられるので、(中略)配慮が大切だと思った。」等の感想からもこのことがうかがえる。

人とかかわっていく中では、腹の立つこともあれば、思うようにいかないこともある。そのような状況におかれたときに、短絡的に逃避したり、攻撃したりすることが、人間関係の問題の原因になることが多い。「子どもは全く言うことを聞いてくれない(中略)大人として、子どものそういうところも受け入れていこうと考え方が変わってきました。」、「園児との交流を通して、我慢することができるようになりました。」等の感想からは、乳幼児や高齢者といった自分と異なる人との交流の中で、思うようにいかないことに幾度となく直面することで、人とかかわりに欠かせない受容的態度や自制心が養われてきたように思われる。

さらに、人とかかわりをより深いものにするためには、自己を開示することが求められる。「人にはそれぞれの意見や思いがあると思います。(中略)自分の考えを相手に理解してもらえるように伝えることが大切であることを学びました。」と述べた生徒は、人とかかわりにおける自己開示の必要性に気付いたのではないだろうか。

人とかかわることに対する積極性、他者理解に基づく配慮あるかかわり、受容的態度と自制心、自己開示は、いずれも「人とかかわろうとする力」を成すものである。交流体験活動を通して、「人とかかわろうとする力」が育成されたと考えてよいであろう。

(3) 校内の人間関係づくり

「君が自分から高齢者の方に話しかけていたので感心しました。」、「初めてさんがリーダーをしました。とてもがんばっていました。(中略)こういうところもあるんだなと思いました。」等の感想が聞かれた。交流体験活動においては、乳幼児や高齢者とかかわりだけでなく、レクリエーションの企画のための話し合いや準備・練習等、生徒同士とかかわりが多くある。その中で、生徒たちは互いに新たな面を発見することがある。この感想からはそのことがうかがえる。

レクリエーションを行うためには、クラスが1つになって、互いに協力し合わなければならない。平成19年度からレクリエーションの内容を生徒に主体的に決めさせるようにしたことで、このことに気づく生徒が増えたように思われる。「一番学んだことは、仲間と協力することの大切さです。」等の感想からもそのことがわかる。

「1学期よりもクラスの話合いがスムーズに進むようになった。」等の感想からもわかるように、交流体験活動を通して、生徒同士が互いの人間性の理解を深め、協力関係を深め合うようになったことが、校内の人間関係づくりにつながっているように思われる。学校生活アンケートの「“むつみあい”はクラス内の人間関係等、普段の学校生活に生かされていますか。」という質問に対して、「はい」と回答した生徒の割合は、平成17年度入学生が27%、平成18年度入学生が57%、平成19年度入学生が80%であった(p.42参照)。このことから、レクリエーションの内容を生徒に主体的に決めさせることで、生徒同士のかかわりが深められ、クラス内の人間関係づくりが促進されたと考えられる。

(4) 自己理解

「昔から子どもは好きだったけど、交流体験活動を通して、そのことを再確認できた。」、「みんなを引っ張って何かをすることには向いていないと感じた。逆に人に協力して行動する方が向いていると思った。」等の感想から、生徒が自己理解を深め、自己の適性・能力や興味・関心をよりの確に把握できるようになったことがわかる。また、「園児の自分に対する印象を知りたくなった。」という感想からは、生徒が積極的に自己理解に努めようとする態度が養われていることがうかがえる。

(5) 困難や失敗を乗り越える力の育成

「心をなかなか開いてくれなかった女の子が、心を開いてくれたときは、自分がやっと認められたと思った。」、「最初は特養に行くのがとても嫌でした。でも、(中略)落ち着いて見ていると、ちゃんと反応してくれているし、話もちゃんとできるようになりました。」、「最初は園児たちと遊んだりするのが本当に嫌でした。それでも何回か実習に行くことによって、(中略)園児に合わせて遊んだりすることができるようになりました。」、「今回、レクリエーションの企画・運営のリーダーを担当することになり、わからないことが多くありましたが、周りの人たちが協力してくれて、本番では成功しました。とてもいい経験になりました。」等の感想が聞かれた。年齢の離れた乳幼児や高齢者との交流には、必ず困難や失敗が伴う。話しかけても逃げてしまう園児や言うことを聞いてくれない園児、話しかけても目に見

える反応の返ってこない高齢者もいる。そのような人たちを相手に粘り強くかかわりをもち続けることで、やがて心を開いてくれたり、意思の疎通ができるようになったりする。レクリエーションを生徒主体で実施する中で、様々な障害に直面し、失敗を経験していくことも多いが、このことが困難を乗り越える力の育成につながっていると思われる。

(6) 自己の役割の認識

レクリエーションの内容を生徒に主体的に決めさせるようにした平成19年度以降、「一人ひとりがきちんと自分の役割をこなして協力しないと、物事がうまくいかないということを知った。」「役割分担をしていましたが、皆が自分のことしか考えておらず、なかなかうまく連携がとれず、困っている人に協力してあげることができなかつたので、うまくいかなかったと思いました。」といった、役割に関する感想が目立つようになった。レクリエーションの内容を生徒に主体的に決めさせるようにしたことで、自己の役割に対する認識が高まり、他者の役割とのつながりも意識できるようになったようである。

(7) 在り方生き方の探索

「自分にも幼かったときがあり、やがて歳をとっていくのだなと思った。」等の感想が聞かれた。生まれて数ヶ月から数年の乳幼児や体力的にも衰えが見られる高齢者とかかわりをもつことで、成長や老化に接し、人間としての在り方生き方を考えることができるようになってきた。

3年間の取組の中で、毎年度、課題を検討し、指導方法・内容の改善を重ねてきた。しかしながら、依然として残されている課題もある。その課題について論述し、後述する「交流体験活動ガイドライン」(p.57参照)につなげたい。

(1) 体験の場から実生活への応用

異学年交流の促進やグループワーク等、交流体験活動で学んだことを実生活に生かすための取組を行ってきた。しかしながら、学校生活アンケートの“むつみあい”はクラス内の人間関係等、普段の学校生活に生かされていますか。”という質問に対して、「いいえ」または「どちらでもない」と回答した生徒の割合が全校で57%であった(p.42参照)ことからわかるように、交流体験活動での学びが実生活に十分には生かされていない生徒がいることは否めない。これは、交流体験活動の目的を十分に理解できておらず、体験が体験のまま終わってしまっているということを表している。交流体験活動で学んだことを実生活に生かすことが本来の目的であるということが理解できるよう、オリエンテーションのときだけでなく、事後指導等において必要に応じて指導しなければならない。

(2) 段階的・系統的指導

本活動のねらい(p.12~13参照)を達成するためには、高校3年間を通した長期的・継続的な取組が必要と考えられる。現在、こうした取組により成果が得られていることは確実であるが、指導に段階性・系統性が欠けていることも事実である。学習要素と目標を各学年に適切に配置し、3年間にわたる指導を段階的・系統的なものにする必要がある。

(3) 評価の方法

教育活動として交流体験活動を実施するからには、適切な方法で評価を行わなければならない。これまでは、積極的にかわりをもとうとしている、与えられた作業にまじめに取り組んでいる、反省をもとに実習への取組を改善しようとしている、活動日誌をきちんと書いている、の4つの評価規準について、1(できなかった)・2(あまりできなかった)・3(できた)・4(よくできた)の4段階の評価を行ってきた(表5)。なお、は「関心・意欲・態度」、は「思考・判断」、は「技能・表現」の観点における評価規準である。「知識・理解」の観点

における評価は、交流体験活動の趣旨にそぐわないため除外している。

本来、評価規準は教育活動のねらい(つきたい力)と整合していなければならない。しかしながら、前述の評価規準 ~ は、交流体験活動のねらい(p. 12 ~ 13 参照)と必ずしも整合していない。それは、例えば、「自己

肯定感が育まれた。」や「人とかがかわろうとする力が養われた。」等の評価規準について、客観的・数量的に評価することは極めて困難であり、また、誠実に交流体験に取り組んだが、自己肯定感が十分育まれなかったような場合に、評価を低くすることは適当ではないからである。代わりに、行動観察や振り返りの記述内容等から、できるだけ客観的、かつ、学習の結果よりも過程を重視した評価をすることができる規準として、前述の評価規準 ~ を考案したのである。客観性や学習過程を重視したことで、評価規準とねらいの整合性が十分ではない結果となったのである。このジレンマを解消できる評価方法を開発することは、今後の重要な課題である。

表5 交流体験活動の評価表

観点	評価規準	評価基準			
		よくできた	できた	あまりできなかった	できなかった
関心・意欲・態度	積極的にかかわりをもとうとしている	4	3	2	1
	与えられた作業にまじめに取り組んでいる	4	3	2	1
思考・判断	反省をもとに実習への取組を改善しようとしている	4	3	2	1
技能・表現	活動日誌をきちんと書いている	4	3	2	1

他領域との関連

“むつみあい”の第1学年の学習内容のうち、各教科・科目と関連の深いものについては、その科目に位置付けて指導を行ってきた(表6)。

1年目の平成17年度は、「子どもを育てる」・「高齢者と生きる」等の単元との関連が深いことから、家庭基礎(6単位時間)に

において乳幼児・高齢者との交流体験活動を行った。

2年目の平成18年度は、平成17年度に引き続き、家庭基礎(4単位時間)において乳幼児・高齢者との交流体験活動を行った。さらに、「生活の中のメディア」を情報A(1単位時間)において、「生と死」(柳田邦男著『「死の医学」への日記』を讀んで)を国語総合(1単位時間)において指導した。

3年目の平成19年度は、乳幼児・高齢者との交流体験活動を家庭基礎において実施するのは取り止め、「眠りと心」を理科総合A(1単位時間)で、「赤ちゃんの誕生と生命」を保健(1単位時間)で、「保育園児の発達と遊びの変化」を家庭基礎(1単位時間)で、「生活の中のメディア」を情報A(1単位時間)で、「生きるとは」(柳田邦男著『「死の医学」への日記』を讀んで)を国語総合(1単位時間)で指導した。いずれの学習内容も、その科目の内容と関連の深いものである。

このように、関連する科目数を増やし、より横断的な学習になるようにした。

なお、平成18年度以降は、第2・3学年の交流体験活動を社会福祉基礎(第2学年)と社会福祉実習(第3学年)に位置付け、福祉科と関連させて指導を行った。

表6 各教科・科目における“むつみあい”の学習内容

年度	学習内容	位置付け (科目)	単位時間数	
			内訳	合計
17	乳幼児・高齢者との交流体験活動	家庭基礎	6	6
18	乳幼児・高齢者との交流体験活動	家庭基礎	4	6
	「生活の中のメディア」	情報A	1	
	「生と死」	国語総合	1	
19	「眠りと心」	理科総合A	1	6
	「赤ちゃんの誕生と生命」	保健	1	
	「保育園児の発達と遊びの変化」	家庭基礎	1	
	「生活の中のメディア」	情報A	1	
	「生きるとは」	国語総合	2	
	振り返り			

『「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究」報告書』（平成14年11月；国立教育政策研究所生徒指導研究センター；以下、同報告書）によると、「職業的（進路）発達にかかわる諸能力」は、人間関係形成能力（自他の理解能力、コミュニケーション能力）、情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力）、将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力）、意志決定能力（選択能力、課題解決能力）の4領域8能力に分けられる（表7）。このうち、“むつみあい”によって育成されることが特に期待されるものとして、「自他の理解能力」、「コミュニケーション能力」、「役割把握・認識能力」、「計画実行能力」、「課題解決能力」の5能力が挙げられる。

表7 職業的（進路）発達にかかわる諸能力

領域	能力
人間関係形成能力	自他の理解能力
	コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力
	職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力
	計画実行能力
意志決定能力	選択能力
	課題解決能力

（参考）『「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究」報告書』（国立教育政策研究所生徒指導研究センター）

（1）「自他の理解能力」の育成

「自他の理解能力」の育成は、“むつみあい”のねらいでもあり、「成果と課題2成果（2）（4）」（p.46～47参照）で“相手のことを理解しようとする態度が身に付いた”、“自己理解を深め、自己の適性・能力や興味・関心をよりの確に把握できるようになった”と述べたとおり、その効果も確認された。「保育園では、明るくしようとしたり、小さい子に合わせていたり、笑顔を作ってみたりで、無理をしていたと思います。進路を決めるときは、自分に合った進路にしたい。」「にぎやかなところが苦手なので、こういう仕事は自分には合っていないと思いました。」等、自己理解に基づいて自己の進路を考えられるようにもなった。

（2）「コミュニケーション能力」の育成

「コミュニケーション能力」の育成も、“むつみあい”のねらいの一つである。交流体験活動を通して「人とかがわろうとする力」が育成されたことは、「成果と課題2成果（2）」（p.46参照）で述べたとおりである。「人とかがわるといことは、社会に出ても大切なことなので、今からしっかりと身に付けていきたい

と思います。」という感想が示しているとおり、これからの社会生活にはコミュニケーション能力が欠かせないものであるということも理解できるようになってきている。

(3) 「役割把握・認識能力」の育成

平成19年度よりレクリエーションの内容を生徒に主体的に決めさせるようにしたことで、「役割把握・認識能力」の育成という新たな成果が認められたことは、「成果と課題 2 成果(6)」(p.48参照)で“自己の役割に対する認識が高まり、他者の役割とのつながりも意識できるようになった”と述べたとおりである。

(4) 「計画実行能力」の育成

レクリエーションの内容を生徒に主体的に決めさせたことは、他にも想定していなかった成果を挙げた。それは、「計画実行能力」の育成である。「みんなで話し合い、計画を立てることの大切さを知りました。」という感想からは、「計画実行能力」の必要性を認識できるようになったことがわかる。

(5) 「課題解決能力」の育成

“むつみあい”で育成したい力の一つとして挙げている「困難や失敗を乗り越える力」とは、言い換えれば「課題解決能力」である。当初は、乳幼児や高齢者とのかわりの中で直面する「課題」を想定したが、平成19年度よりレクリエーションの内容を生徒に主体的に決めさせるようにしたことで、新たにレクリエーションの企画・運営の中で生じる「課題」にも取り組むこととなり、課題解決能力を育成する機会を増やすことができた。

なお、「成果と課題 2 成果」(p.45～48参照)で述べた「自己肯定感」の獲得や「在り方生き方」の探索は、同報告書によると職業的(進路)発達課題として挙げられている。“むつみあい”は、職業的(進路)発達課題の克服にも効果が期待される。

以上のように、“むつみあい”とキャリア教育の関連は、非常に密接なものであると考えている。

(1) 「役立ち感」の育成

『「生徒指導体制の在り方についての調査研究」報告書 - 規範意識の醸成をめざして』（平成18年5月；国立教育政策研究所生徒指導研究センター）によると、「規範意識は（中略）子ども達の中で内面化されて自律的に自らの行動を規制するようにする必要がある」とされ、いわゆる「自己指導力」の育成が求められている。また、国立教育政策研究所の滝充総括研究官は、「「異学年交流」「地域交流」こそ育成の要諦」（『CS研レポートVol.58』、2006年）の中で、「「自己有用感」は他者の存在や他者との交流を前提にして生まれる。だからこそ、「社会性の基礎」となって、他者に対する配慮や集団に対する責任感、きまりを守って行動しようとする自覚等にも結びついていく。今、学校に求められているのは、「自己有用感」を獲得できるような体験活動の機会を増やすことだ」と述べている。これらのことから、生徒指導の第一の課題は自己指導力の育成であり、自己指導力の育成の基になるのは自己有用感であると言える。そして、自己有用感を育むためには、交流体験活動の機会を増やす必要があるということである。“むつみあい”のねらいである「役立ち感」とは、まさにこの「自己有用感」のことであり、“むつみあい”は自己指導力の育成につながるものであると言えよう。

(2) 「人とかがわろうとする力」の育成

いじめや不登校等、生徒指導上の今日的課題の多くは、人間関係形成能力の欠如に原因があると考えられる。「成果と課題 2 成果」（p.45～46 参照）で述べたとおり、“むつみあい”には、人とかがわろうとする力を育成する効果があることがわかった。交流体験活動を通して、乳幼児や高齢者とのかかわりだけでなく、生徒同士のかかわりも促進され、学校内の人間関係づくりにつながるということがわかってきた。生徒指導上の課題を解決するための有効な手だてとして期待できる。現に、本校の問題行動状況を調査したところ、平成19年度は懲戒処分件数・退学件数ともに過去6年間で最少であった。交流体験活動だけの効果でないことは言うまでもないが、少なからず寄与したと考えてよいであろう。

交流体験活動ガイドラインの作成

乳幼児や高齢者との交流体験活動に3年間取り組んできた。その中で、指導上の課題を発見しては、解決策を練り、指導方法・内容の改善につなげてきた。いくつかの課題を残しつつも、3年間という短い期間で、一定の教育効果を上げることができるようになったと考えている。今後も、交流体験活動のより良い在り方を研究していくが、3年間の節目にこれまでの研究の成果をまとめた「交流体験活動ガイドライン」を作成することとした。ガイドラインは、交流体験活動を導入するにあたって配慮することが望ましい事項10項目を示した「交流体験活動の在り方」と交流体験活動の学習要素と目標を段階的・系統的に配列した「交流体験活動の指導マトリックス」の2部で構成した。

1

ガイドライン第1部 交流体験活動の在り方

長期的・継続的に実施する

交流体験活動では初めのうちは緊張し、目的に沿った活動を行うことが難しい。また、活動に慣れた後も、自らの課題を発見し、克服するには、長い期間を要する。「2年生になってやっと園児の様子から何をしてほしいかを理解できるようになった。」、「1年のときは保育園の実習は嫌だと思っていました。でも、2年になって少しだけ変わりました。子どもはかわいいと思えるようになり、無理せず楽に交流できるようになりました。」、「1・2年のときは自分から進んで交流することができませんでしたが、3年になってからは自分で進んで話しかけたりすることができるようになり、楽しくなりました。」等の感想からもそのことがうかがえる。教育効果を発揮するためには、長期的・継続的に実施することが望ましい。長期にわたって乳幼児や高齢者とかかわりをもつことで、人間の成長や老化に接し、人としての生き方を考えたり、命の大切さを学んだりすることもできる。

活動内容を生徒に主体的に設定させる

「成果と課題 2成果」(p.46～48参照)及び「他領域との関連 2キャリア教育との関連」(p.54参照)で述べたとおり、活動内容を生徒に主体的に決めさせることで、人とかかわろうとする力の育成、校内の人間関係づくりの促進、困難や失敗を乗り越える力の育成、自己の役割の認識、計画実行能力の育成等、交流体験活動の教育効果を広げ、高めることができた。また、活動に対する積極性が向上したことも、活動の様子からうかがえた。なお、活動内容を設定させる際には、レクリエーションに偏らず、自由なかかわりの時間を設けることも必要である。

異学年合同での活動を取り入れる

異学年合同での交流体験活動では、「ルールもわかりやすく、園児たちが楽しく遊べていたので、説明していた先輩方はすごいと思った。」と述べているように、下級生は上級生を手本として学ぶ。特に、1年生は、上級生とともに活動に取り組むことで、初めての交流体験活動に円滑に入ることができる。また、上級生は、「1年生に教えることを通して、園児との接し方を再確認できた。」と述べているように、「教える」ことで学びを深めることができる。このように、異学年合同での活動は、上級生・下級生双方に利点がある。

生徒に活動の趣旨を十分に理解させる

各教科・科目等の学習と異なり、交流体験活動の趣旨を理解することは、生徒にとっては容易なことではない。しかし、趣旨を理解できないまま活動に取り組んでも、目標の達成に向けて効果的に学習することはできない。事前指導等において、交流体験活動の趣旨を十分に理解させるようにする必要がある。

教育課程上に適切に位置付ける

教育課題が山積する今日において、交流体験活動の時間を確保することは大きな課題である。長期的・継続的な活動を実現するには、教職員間の共通理解を深め、十分な時間を確保できるようにしなければならない。十分な時間を確保し、かつ、交流体験活動のねらいに即した教育課程上の領域に位置付ける必要がある。

キャリア教育との一体化を図る

「他領域との関連 2 キャリア教育との関連」(p.53～54参照)で述べたとおり、交流体験活動は、国立教育政策研究所生徒指導研究センターの示した「職業的(進路)発達にかかわる諸能力」の4領域8能力のうち、3領域5能力の育成に効果がある。交流体験活動をキャリア教育の一環と位置付け、従来のキャリア教育と一体の指導を展開することで、よりよいキャリア形成が期待できる。

生徒指導との一体化を図る

生徒指導の第一の課題は自己指導力の育成である。国立教育政策研究所の滝充総括研究官が述べている(p.55参照)とおり、交流体験活動で「役立ち感」(自己有用感)を育成することが、自己指導力の向上につながる。交流体験活動を積極的生徒指導ととらえて指導を展開することで、生徒指導上の課題解決が期待できる。

各教科・科目との関連付けを図る

交流体験活動の学習を深めるため、各教科・科目との関連を広げ、横断的な学習ができるようにすることが望ましい。特に、家庭科・保健体育科・福祉科等は関連が深い。また、各教科・科目と関連付けて活動を展開することで、指導の時間を確保できるという利点もある。

関係施設との連携を図る

交流体験活動の実施にあたっては、関係施設との共通理解が欠かせない。特に、交流体験活動の趣旨は十分に理解してもらう必要がある。例えば、生徒に主体的に活動させると、うまく活動が進まず、施設側に迷惑をかけるような場面が多くなる。そのような場合、主体的活動の意義の理解が不十分であると、「学校側の指導が足りないのではないか。」といった不信感につながることもある。より充実した活動とするためには、共通のねらいに向かって、関係施設と連携して指導を展開することが不可欠である。

また、交流体験活動が、施設側にもメリットがあるものになるように配慮することも求められる。保育園では、乳幼児が親や保育士以外の年長者とかわることで新たに学ぶことがある。高齢者施設では、施設外の人との交流を行うことで、開かれた施設づくりを促すことができる。このような視点に立って、指導計画を立案する必要がある。

安全・衛生管理を徹底する

交流体験活動では乳幼児や高齢者を相手にするため、安全・衛生に十分に配慮しなければならない。安全・衛生に配慮するよう事前指導を行うことはもちろん、毎回、爪の長さのチェックを行うなど徹底した指導が必要である。また、高齢者との交流では、専門的な知識・技術を要する介助に携わらせるか、どの程度まで関わらせるかを施設職員と具体的に打ち合わせておかなければならない。決して、施設職員の許可を得ず、生徒が勝手に介助を行わないよう注意する必要がある。さらに、感染症にかかっている生徒は、マスクを装着させる、手指を消毒させる、学校に待機させるなど、適切に対処しなければならない。冬季の高齢者施設実習は、感染症の流行により計画どおりに実施できない可能性が高いため、避けた方がよい。もちろん、生徒の安全管理も十分に行わなければならない。万一に備え、傷害保険や賠償責任保険 に加入しておくことが望ましい。

本校では、財団法人産業教育振興中央会のインターンシップ・ボランティア等体験活動賠償責任保険制度及びインターンシップ・ボランティア等体験活動傷害保険制度に加入している。

2

ガイドライン第2部 交流体験活動の指導マトリックス

目標

自己肯定感や人とかがかわろうとする力を養い、他者を思いやる心を育成する。併せて、自己理解を深めたり、在り方生き方を考えさせたりして、キャリア形成を促す。

指導マトリックス

活動	内 容 学習要素	各学年の目標		
		第1学年	第2学年	第3学年
レクリエーションの企画・準備・練習	生徒同士でかかわる	校内の人間関係づくりを促す	他の生徒の新たな一面を発見するなど、生徒同士の相互理解を深める	
	乳幼児・高齢者の気持ちや能力を押し量る		相手の立場になって物事を考えるなど、他者理解をできるようにする	
	困難や失敗を経験し、反省に基づいて克服する			課題解決能力を育成する
	準備・練習の計画を立てたり、役割分担をしたりする	自己の役割を認識できるようにする	自他の役割の関係を理解できるようにする	計画実行能力を育成する
	(「学習要素」の複合的な体験)		自己の適性・能力、興味・関心を把握するなど、自己理解を深める	
乳幼児・高齢者との交流	話したり、遊んだり、介助したりしてふれあう	自分から話しかけるなど、積極的にかかわることができるようにする	自分との違いを理解した上で、適切な配慮ができるようにする	より深いかかわりがもてるよう、自己開示できるようにする
	乳幼児が言うことを聞いてくれないなど思いどおりにならない経験をする		自制心を養い、受容的態度を身に付けさせる	
	遊びや介助等を通して、相手に喜ばれたり、感謝されたりする	人の役に立つ喜び(役立ち感)を実感させる	自己の存在意義を認識させる	自己肯定感を育てる
	乳幼児の成長や高齢者の老いに接する			自己の在り方生き方を考えさせる
教科の学習	「家庭基礎」の子ども及び高齢者に関する内容を学習する	子どもの成長・発達や高齢者の心身の変化の特徴を理解させる		
	「保健体育」の自己実現に関する内容を学習する	自己実現は、自己理解を深め、自己の能力・特性を発揮することであることを学ぶ		

■ … 特に生徒指導と関連の深い目標 □ … 特にキャリア教育と関連の深い目標

■ … 生徒指導とキャリア教育の双方と関連の深い目標

参 考 资 料

関係施設や地域社会の理解を得ることを目的として、“むつみあい”の取組の様子や生徒の感想等を紹介する広報誌『むつみあい通信』を年5回程度発行している。本校の生徒・保護者・保育園の保護者・関係施設・周辺地域の諸施設に配付している。これまでに発行した『むつみあい通信』を以下に紹介する。

『むつみあい通信』創刊号（平成18年7月発行）

山口県立徳佐高等学校高保分校 平成18年7月8日

むつみあい通信

創刊号

山口県立徳佐高等学校高保分校
 TEL/FAX 08388-8-0028
 URL: <http://www.tokusa-th.yasn21.jp/>
 /kyouiku
 e-mail: tokusa-th@yasn21.jp

思いやりの心 自分を大切に作る心

最近の子どもたちのご家庭での生活をどのように感じられているでしょうか？天気のよい休日にも家にこもり、一人テレビ画面に向き合い、ゲームなどに興じているのでないでしょうか。おにごっこにかくれんぼ、虫捕り、空き地での野球・・・昔のように、近所の友達と日が暮れるまで外遊びに熱中している姿はあまり見かけられなくなったように思われます。そんな遊びの中でときにはケンカもしながら、思いやりの心を育み、人間関係の築き方を学んでいくものなのに・・・このように子どもを取り巻く生活環境が変化する中、むつみキャンパス（高保分校）は、昨年度より文部科学省の「豊かな体験活動推進事業」における調査研究協力校の指定を受け、「むつみあい」と称して、むつみ保育園や特別養護老人ホームむつみ園との交流活動を行っています。保育園児や高齢者の方々とかかわることで、生徒に思いやりの心と自分を大切に作る心を育み、命の大切さを学ばせることをねらいとしています。

昨年度の取組みでは、むつみ保育園やむつみ園の方々をはじめ、地域の皆様方に多大なるご支援を賜り、生徒から「人とのかわりに対する意識が変わった」という言葉が出るなど、有意義な活動となりました。心より御礼申し上げます。今年度は「むつみあい」をさらに充実させ、むつみキャンパスだけでなく、保育園児や高齢者の方々にとっても意義があり、地域の活性化にも貢献できるような活動にしていきたいと考えています。

はじめての対面

4月24日、むつみキャンパスの1年生とむつみ保育園の園児のはじめての対面。むつみキャンパスの1年生は、少し緊張の面持ち。園児は興味津々で、お兄さん、お姉さん達に視線を向けていました。はじめはぎこちなかった1年生も、あどけない笑顔で飛び込んでくる園児たちとあつという間に仲良しになりました。



むつみ保育園でのふれあい



園児にクラフトのプレゼント

みんなの声

- *プレゼントも「ロケットがいい」など（の声が）聞けて、すごく嬉しかった。頑張って作った甲斐があった。（むつキャンBさん）
- *積極的に園児に声をかけようと思ったけどちょっと引いてしまったので今度はどンドン声をかけていきたい。（むつキャンEさん）
- *園児を喜ばせたりすることができてよかったし、うれしかったです。（むつキャンRくん）

むつみあい通信

Vol.2

山口県立徳佐高等学校高保分校
TEL/FAX 08388-8-0028
URL: <http://www.tokusa-th.ysn21.jp/~kyouiku>
e-mail: tokusa-th@ysn21.jp

手作り紙人形劇に園児も大喜び!

むつみキャンパスの1年生が夏休み返上で紙人形を作りました。真夏の暑い中、自分たちの作った紙人形を使って、劇「プーさんのキラキラ星」を練習しました。いよいよ本番、8月29日にむつみ保育園で紙人形劇を披露しました。園児達は食い入るように劇を鑑賞していました。



むつみ保育園で紙人形劇の披露



むつみ保育園の園児と散歩(吉部にて)

園児とさんぽ

10月4日、秋晴れ。心地よい風の吹く中、むつみ保育園の園児と一緒に散歩に出かけました。各々、園児とペアになって手をつなぎ合い、園児のペースに合わせてながら散歩しました。園児たちは高校生に手をつないでもらえてとても嬉しそうでした。高校生もそんな園児を愛おしそうにしていました。

むつみ園の運動会に参加

9月20日、むつみ園の運動会に参加しました。入所者の方々の元気に生徒も圧倒されていました。また、学校で練習したフォークダンスを入所者の方々と一緒に踊りました。



むつみ園の運動会

(紙人形劇では)園児のみんなが静かに聞いてくれてうれしかったです。

(むつキャン1年6さん)

「お姉ちゃん一緒に遊ぼう」といってくれてうれしかった。

(むつキャン2年Tさん)

みんなの声

園児と歩きながら、自然に触れることができたのでよかった。

(むつキャン2年Sさん)

高齢者の方々とフォークダンスを踊り、楽しんだ。

(むつキャン2年Hくん)

むつみあい通信

Vol.3

山口県立徳佐高等学校高俣分校
TEL/FAX 08388-8-0028
URL : <http://www.tokusa-th.ysn21.jp/>
/kyouiku
e-mail : tokusa-th@ysn21.jp

福寿会との交流 ～伝統玩具の作製～

10月20日、福寿会の方々にお越しいただき、伝統玩具の作製をご指導いただきました。昨年度に引き続き、2回目の開催です。今回は、竹馬・竹鉄砲・竹とんぼ・お手玉の作り方を教わりました。福寿会の方々の巧みな技に生徒たちは尊敬のまなざしを向けていました。できあがった竹馬や竹鉄砲などで、皆、童心に返って遊びました。伝統玩具の作製を通して、福寿会の方々との交流を深めることができ、有意義な時間になりました。



竹馬の作製



むつみ保育園の園児達とリンゴ狩り

むつみ保育園とリンゴ狩り

11月6日、保育園の園児たちとリンゴ園「食と癒しの徳ちゃん」にリンゴ狩りに行きました。高いところにあるリンゴをとってあげたり、肩車をしてあげたりと、すっかり“お兄ちゃん”、“お姉ちゃん”が板についてきた様子です。行き帰りは、高校生と園児が仲睦まじく手をつなぎ、交流を深めました。交流を始めたころに比べると、お互いの距離がだいぶ近づいてきたように思います。

高齢者とレクリエーション

12月5日、むつみキャンパスの1年生がむつみ園を訪問しました。むつみ園の方々に喜んでいただけるよう、この日のためにレクリエーションを準備しました。



「的当てゲーム」など、むつみ園の方々も楽しんでいただけたようで、生徒たちも達成感を感じていたようです。はじめはぎこちなかった生徒も笑顔で接することができるようになってきました。



むつみ園の方々との交流

むつみあい通信

18年度総まくい特別号 Vol.4

山口県立徳佐高等学校高保分校
TEL/FAX 08388-8-0028
URL: <http://www.tokusa-th.ysn21.jp/>
/kyouiku
e-mail: tokusa-th@ysn21.jp

18年度の取組を振り返る

保育園児や高齢者の方々とかかわることで、生徒に思いやりの心と自分を大切にすることを育み、命の大切さを学ばせることをねらいとしてスタートした「むつみあい」。早いもので2年が経とうとしています。今年度は、むつみ保育園やむつみ園での交流活動だけでなく、リンゴ狩りやサツマイモ掘りなど様々な行事を通じた交流にも取り組みました。

☆18年度の取組☆

むつみ保育園やむつみ園での施設内交流に加え、次のような活動にも取り組みました。

- リンゴ狩り (むつみ保育園)
- 運動会 (むつみ保育園・むつみ園)
- むつみキャンパスサツマイモ掘り (むつみ保育園)
- むつみキャンパス文化祭 (むつみ保育園)
- 伝統玩具作製 (高保福寿会)

「むつみあい」で感じたこと

- 折り紙と一緒に作ったときにすごく喜んでくれて練習してきてよかったと思った。
- 最後に「また遊びに来てね、お兄ちゃん」と言うてくれたことがうれしかった。
- 園児たちが紙人形劇を喜んでくれたので、苦労してやった甲斐があった。
- もっと自分から声をかけて、園児からも声をかけてもらえるようになりたい。
- 一人一人の性格を知った上で園児達と接していきたい。
- 自分が役割を果たすことで、園児も喜び、自分も喜びを感じることができたことを学んだ。
- 人とのコミュニケーションを図るには、笑顔で接するなど、相手の気持ちを考えた心配りが大切であるということ学んだ。



高齢者との交流 (むつみ園)

成果とこれからの展望

「園児とたくさんふれあえてすごうれしかった。」「むつみあい」を通して、保育園児や高齢者の方々とふれあうことに喜びを感じ、「人の役に立つことがこんなにうれしいものなんだ」ということを知りました。そして、人とかかわることの大切さも学びました。当初はうまく関係の築けなかった生徒同士も、互いの「できること」、「できないこと」を認め合い、各々の長所を生かし合えるようにもなりました。来年度からは、「むつみあい」で学んだことを普段の学校生活にも生かすことができるよう、異学年の交流などにも取り組んでいきたいと考えています。今後とも関係施設や地域の皆様方のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



園児との交流 (むつみ保育園)

むつみあい通信

むつみあい
～自分好き みんな好き～ vol.5



山口県立徳佐高等学校高保分校
TEL/FAX 08388-8-0028

URL : <http://www.tokusa-th.yan21.jp/kyouiku>
E-mail : tokusa-th@yan21.jp



QRコード

高保分校(むつみキャンパス)には
携帯電話用サイトがあります。

19年度 むつみあい 始動!

むつみキャンパス交流活動「むつみあい」がスタートし3年目を迎えました。平成17・18年度では、文部科学省指定の「豊かな体験活動」の一環として行われ、今年度はむつみキャンパスの「特色ある行事」として、全校をあげて取り組んでいます。

新年度が始まり、3年生はむつみ園、1・2年生はむつみ保育園での交流活動が行われています。



高齢者と風船バレー ～むつみ園～



高齢者とのふれあい ～むつみ園～

高齢者とレクリエーション

4月25日、3年生がむつみ園を訪問しました。この日は、高齢者の方々と「風船バレー」を行い、交流を深めました。久しぶりの交流活動でこころなかつた生徒達も「風船バレー」でしっかり打ち解けたようです。

その後、残った時間で生徒達が積極的に高齢者の方と話をしていました。時にはお互い笑顔が出るような楽しい会話が合ったようです。さすが活動3年目のベテランです!

保育園児との交流

5月より1・2年生がむつみ保育園を訪問しています。今年度最初の実習は、1年生の自己紹介から始まりました。1年生は初めての実習でやや緊張気味でしたが、「よろしくおねがいします!」という園児達のあたたかい歓迎に思わず生徒達も笑顔がこぼれていました。



園児に自己紹介 ～むつみ保育園～



園児とのふれあい ～むつみ保育園～



生徒の感想 ～保育園実習より～

園児達と楽しく遊んで過ごすことができました。

むつキャンAさん

自分達で企画して実習をするのは大変楽しいと思いました。また、今回の実習でさらに園児達と仲良くなれたと思います。

むつキャンBさん



山口県立徳佐高等学校 (高俣分校)
TEL/FAX 08388-8-0028
URL : <http://www.tokusa-th.ysn21.jp/kyouiku>
E-mail : tokusa-th@ysn21.jp



WEBページでの検索は

むつみキャンパス |

検索

サツマイモの収穫

9月21日(金)、地元の保育園の園児達を本校のサツマイモ畑に招いて、サツマイモの収穫を行いました。生徒達が園児達とペアになって畑で収穫開始!「お兄ちゃん獲れたよ～」と園児の喜ぶ声が聞こえました。生徒・園児と一緒にサツマイモを収穫する姿を見て、さらにお互いの距離が近づいてきたように思います。今回、収穫したサツマイモは、園児達へのお土産となりました。



イモが獲れたよ! ~ むつみキャンパスにて ~

保育園児とリンゴ狩り



リンゴおいしいね! ~ リンゴ園にて ~

11月8日(木)、保育園の園児達と阿東町の「生駒りんご園」にリンゴ狩りに行きました。リンゴ狩りは昨年引き続き2回目。生徒達は園児達のために、高いところにあるリンゴをとってあげたりしていました。

とれたてのリンゴの味はどうだったかな??



11月9日(金)山口新聞朝刊より
リンゴ狩りの様子が掲載されました

高齢者とレクリエーション

10月から1・2年生の高齢者施設実習が始まりました。10月25日(木)にむつみ園を訪問しました。

1年生は慣れてきた保育園実習を終えて、高齢者施設での初めての实習ということで、やや緊張気味でした。

実習では、高齢者の方々とお散歩をしたり、カルタ・トランプなどをしたりして交流を深めていました。

生徒の感想 ~ 高齢者施設実習を終えて ~

初めての実習だったので緊張していたが、もっと積極的に高齢者の方たちに話しかけることが大切だと思いました。

むつキャン1年Aさん



高齢者とのふれあい ~むつみ園にて~





高 山口県立徳佐高等学校 (高俣分校)
 TEL/FAX 08388-8-0028
 URL : <http://www.tokusa-th.yzn21.jp/kyouiku>
 E-mail : tokusa-th@ysn21.jp



WEBページでの検索は

福寿会との交流 ~ しめ飾りを作製して 交流を深めよう ~

昨年12月6日(木)、福寿会の方々にお越しいただき、正月用しめ飾りの作製をご指導いただきました。福寿会の方々のご指導は平成17年度から今年で3回目です。
 昨年は、竹馬・竹鉄砲・竹とんぼ・お手玉の作製をご指導をいただきました。



巧みな技にビックリ!!

ワラをほぐすのも一苦労!
 実際にしめ飾りの作製をすると…とてもこれが難しい! 福寿会の方々のご指導と巧みな技術に生徒たちは尊敬のまなざし!! また、教員も作製に参加し、約2時間かけてしめ飾りが完成しました。
 しめ飾りの作製を通して、福寿会の方々と交流を深めることができ、有意義な時間になりました。
 完成したしめ飾りは、正月用の飾りにした後、交流行事のどんど焼きに使われました。

保育園児・小学生との交流 ~ みんなでいっしょに 心も体も温まろう会 ~



いよいよ点火! ~どんど焼き~

1月15日(火)、萩市立むつみ小学校にて、萩市むつみ保育園・萩市立むつみ小学校・むつみキャンパス合同で「みんなでいっしょに心も体も温まろう会」を行いました。本校はむつみあいの一環として初めて参加し、どんど焼きや名刺交換ゲーム・福笑いなどのイベントで交流を深めました。みんな楽しめたかな?~



よろしくね! ~名刺交換ゲーム~



うまくできたかな? ~福笑い~



一言お願いします ~インタビュー~

特色ある教育活動として、新聞・テレビの取材を多数受けてきた。不登校やいじめ、命を軽んじる事件の増加等が社会問題として取り沙汰される中、自分を大切に思う心や思いやりの心を育む“むつみあい”の取組に注目が集まっている。以下に、“むつみあい”の取組に関する新聞記事を2点紹介する。

山口新聞 平成18年5月23日

園児と会話慣れた

徳佐高高校分校 交流事業楽しむ

萩市高佐下の徳佐高校のあいさつを交わした。徳佐高高校分校の二年生七人が、七夕のグループに分かれ、折り紙で小さなたむつみ紙質（水安男子園児）二十八人を訪れ、園児と交流した。

園児が取り組んでいる「園の「豊かな体験活動推進事業」の一環、生徒たちは四月から園児を訪問しており、今回が三回目の交流。園児たちも朝のあいさつを交わした。七人のグループに分かれ、折り紙で小さなたむつみ紙質（水安男子園児）二十八人を訪れ、園児と交流した。

園児が取り組んでいる「園の「豊かな体験活動推進事業」の一環、生徒たちは四月から園児を訪問しており、今回が三回目の交流。園児たちも朝のあいさつを交わした。七人のグループに分かれ、折り紙で小さなたむつみ紙質（水安男子園児）二十八人を訪れ、園児と交流した。

園児が取り組んでいる「園の「豊かな体験活動推進事業」の一環、生徒たちは四月から園児を訪問しており、今回が三回目の交流。園児たちも朝のあいさつを交わした。七人のグループに分かれ、折り紙で小さなたむつみ紙質（水安男子園児）二十八人を訪れ、園児と交流した。



リンゴ狩り“兄弟”

徳佐高高保分校むつみ保育園交流

萩市高佐下の徳佐高高保分校（中村充範校長、二十二入）の全校生徒が八日、阿東町蔵目喜の生駒りんご園を訪れ、地元のむつみ保育園園児三十人とリンゴ狩りを楽しんだ。

生徒たちは、高い枝に突ったリンゴを取ろうと手を伸ばす園児を抱きかかえたり、はしこを支えたりした。食べごろを迎えた「ふじ」をもぎ取ると早速かじりつき、秋の味覚を楽しんでいた。二年の岩本七重さん（こ）は「リンゴがおいしかった。子どもたちがけがをしないように気を付けた」、一年の堀永優也君（こ）は「一緒にリンゴ狩りができて楽しかった。子どもたちと遊ぶと癒やされる」と話していた。

同校では二〇五年度から、保育園児と触れ合ったり、老人ホームを慰問するなどの交流活動「むつみあい」に取り組んでいる。

高校生とリンゴをほお張る園児たち

参 考 文 献

- 1 高塚人志（2000）『すてきなあなたになるために 心を開き心をつなぐ人間関係体験学習実践』富士出版
- 2 高塚人志（2006）『いのち輝け 子どもたち』今井書店
- 3 鳥取県立赤碕高等学校（2005）『いのちみつめて・瞳輝く子どもたち - 学校と地域の心のハーモニー - 』
- 4 国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）『「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究」報告書』
- 5 国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2006）『「生徒指導体制の在り方についての調査研究」報告書 - 規範意識の醸成をめざして』
- 6 滝充（2006）『「異学年交流」「地域交流」こそ育成の要諦』（教科教育研究所編『CS研レポートVol.58』啓林館）
- 7 有村久春（2005）『「命を大切にせる教育」をどう進めるか』教育開発研究所
- 8 上杉賢士（2004）『「いのち からだ こころ」の本質的な学び』教育開発研究所
- 9 文部科学省（2005）『新・児童生徒の問題行動対策重点プログラム（中間まとめ）』
- 10 文部科学省（2006）『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引 - 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために - 』
- 11 山口県教育委員会（2007）『児童生徒一人ひとりの夢の実現に向けて』（リーフレット）

“むつみあい” 校内関係者一覧

校 長	爲 久 薫 雄	(平成 20 年度 ~)
校 長	中 村 充 範	(平成 19 年度)〔山口県立日置農業高等学校長〕
元 校 長	木 橋 秀 峰	(平成 16 年度 ~ 平成 18 年度)〔退職〕
教 頭	古 谷 修 一	(平成 19 年度 ~)
教 頭	馬屋原 務 本	(平成 17 年度 ~ 18 年度)〔山口県立大津高等学校教頭〕
教 諭	青 木 祐 子	(平成 19 年度 ~)
教 諭	一 島 圭	(平成 16 年度 ~)
教 諭	多久和 恵美子	(平成 17 年度 ~)
教 諭	花 村 雅 徳	(平成 16 年度 ~)
教 諭	吉 村 晋 佑	(平成 18 年度 ~)
元 教 諭	城 崎 恭 子	(平成 15 年度 ~ 平成 19 年度)〔退職〕
元 教 諭	阿 部 弘 海	(平成 11 年度 ~ 平成 18 年度)〔退職〕
元 教 諭	井 町 頼 信	(平成 18 年度)〔山口県立萩高等学校及び山口県立萩商工高等学校非常勤講師〕
教 諭	大 田 浩 平	(平成 13 年度 ~ 17 年度)〔山口県立萩高等学校教諭〕
元 教 諭	斎 藤 陽 子	(平成 16 年度 ~ 平成 17 年度)〔退職〕
元 講 師	山 本 源 太 郎	(平成 19 年度)〔高俣分校及び山口県立美祢高等学校非常勤講師〕
養護教諭	伊 藤 淳 子	(平成 18 年度 ~)
養護教諭	渡 邊 裕 貴	(平成 17 年度)〔山口県立広瀬高等学校養護教諭〕
非常勤講師	角 田 暎 子	(平成 19 年度 ~)
元非常勤講師	藤 本 節 子	(平成 14 年度 ~ 平成 18 年度)〔退職〕

(注)()は表記の職で本校に在籍した期間を表す。〔)は現況を表す。